

2016 年度秋学期卒業研究論文

題目

12 星座占いを含めた西洋占星術の 歴史と存在意義について ～人間は何故、占いを求め続けるのか～

氏名	藤森緑（占い師名）
指導教員	中村要 先生
教育コーチ	前文章 コーチ

早稲田大学 人間科学部

注意：本論文から引用される場合は、必ず著者名・論文名を明記してください。

他の閲覧ご希望者への再配布は可能です。

目次

序論

- 1. 背景 —4 頁
- 2. 研究目的 —6 頁

本論

第一章：研究方法・実施

- 1-1：文献研究 —8 頁
- 1-2：分析研究 —8 頁
- 1-3：質問紙調査 —10 頁
- 1-4：インタビュー調査 —13 頁

第二章：研究結果

- 2-1：文献研究の結果 —15 頁
- 2-2：分析研究の結果 —31 頁
- 2-3：質問紙調査の結果 —34 頁
- 2-4：インタビュー調査の結果 —40 頁

第三章：考察 —53 頁

結論 —55 頁

謝辞 —57 頁

参考・引用文献 —58 頁

プロ野球選手、作家データ一覧 —62 頁

序論

1. 背景

世間に流布しているさまざまな占術の中でも、非常に長い歴史を持つ西洋占星術は、世界における普及率は最も高いといえるほどの、大変メジャーな占術である。欧米で最も普及している占術であるといえるのは勿論、同じ源泉を持つ占星術が、インドではインド式占星術¹⁾、中国では宿曜経²⁾ とかたちを変えて、時間をかけながらその普及範囲を拡大させていったという経緯を持つ。

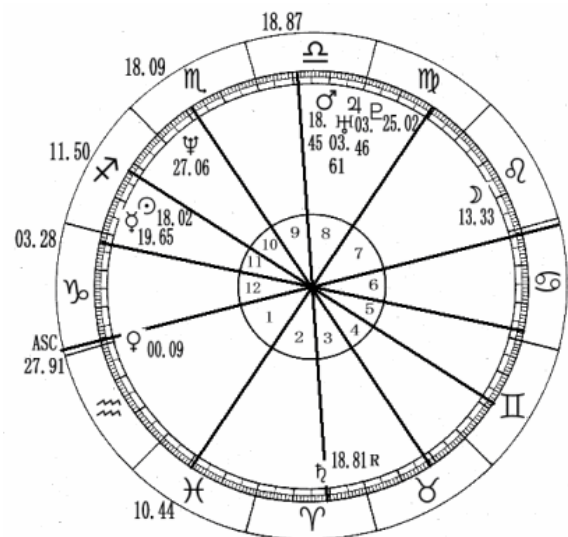
現代の日本において西洋占星術というと、それが一般大衆向けとして簡略化された“12星座占い”を想起する人が多いだろう。12星座占いは、いまやほぼすべてのテレビ局の朝の番組において、またインターネットのポータルサイト上において、欠かすことが出来ない存在となっている。また、雑誌にとって巻末の占いコーナーは、お菓子のおまけ以上の価値がある³⁾ という観点から、大半の女性誌には、毎月・毎週の運勢など、12星座占いの記事が掲載されている。

多くの占術は、“卜術”、“相術”、“命術”の3タイプに分類される。タロット占いや易占いなど、偶然に出た表象に基づいて占いの結果を出す占術が“卜術”、手相や人相など目に見えるものの形や様相に基づいて運勢を出す占術が“相術”、そして個人の生年月日や出生時間を基に占い結果を出す占術が、“命術”である。西洋占星術は、四柱推命や九星気学などと同様に、命術に分類される占術である。

簡易的な占術である12星座占いから想像するのが難しいほど、西洋占星術のシステムは、非常に複雑なものである。西洋占星術により本格的に占う際には、個人の生年月日と出生時刻、出生地を用いるか、もしくは占いたい事象が生じた年月日、発生時刻、発生地を用いて、ホロスコープ(Horoscope)と呼ばれる図像を作成する。ホロスコープには、出生・発生した時刻の天空の星々の位置関係が刻まれているのである。

ホロスコープの主な構成要素は、10惑星、12宮、12室の3つである。10惑星というのは、水星、金星、火星、木星、土星、天王星、海王星、冥王星の8つの惑星に、恒星である太陽、衛星である月を加えた10の星々である。占星術においては、便宜上これらをまとめて10惑星と称している。12宮というのは、広く普及している12星座占いに用いられている概念である。黄道を春分点から12等分し、春分点から30度ごとに、白羊宮、金牛宮、双子宮、巨蟹宮、獅子宮、処女宮、天秤宮、天蠍宮、人馬宮、磨羯宮、宝瓶宮、双魚宮、という順番で一周している。実際の星座とは違っている点

図1:[三億円事件発生時のホロスコープ]
(68年12月10日9時30分東京(筆者作成))



から呼び名が区別されていたが、昨今では牡羊座、牡牛座、双子座、蟹座、獅子座、乙女座、天秤座、蠍座、射手座、山羊座、水瓶座、魚座と呼ばれることが多くなっている。12室というのは、出生時間、出生地・発生地により変化する、ホロスコープの室区分である。黄道と交わった東側の地平線をアセンダント (Ascendant) と呼び、そこを起点として1ハウスとする。室区分法には複数のものが存在し、それらの規定に沿って、反時計回りに1ハウスから12ハウスまで分割していく。アセンダントの星座は上昇宮と呼ばれ、占いで重視されるが、ホロスコープはギリシア語の“ホロスコープス (Horoskopos)”に由来するものであり、それは「私は上昇してくるものを見る」という意味である⁴⁾。このことから、ホロスコープにとっての東の地平線であるアセンダントの重要性がうかがえる。

各惑星、各宮、各ハウスは、それぞれ個別に違った特質を持っており、これらの3つの要素に、さらに惑星同士が形成する主要角度5種による、影響を与え合う強さという要素が加わる。この惑星同士の角度はアスペクト (Aspect) と呼ばれ、重なり合い0度となるコンジャンクション (Conjunction)、対面に位置する180度のオポジション (Opposition)、一般的に吉角とされる120度のトライン (Trine)、一般的に凶角とされる90度のスクエア (Square)、一般的に緩やかな吉角とされる60度のセクスタイル (Sextile) の5種が、主要なものとなる。

このように、ホロスコープは全体で数百の変数を持つ、非常に複雑な構造となっている。H.J.アイゼンク・D.K.B.ナイアス (1986) は、「それらの要因がそれぞれ加えられたり、減じられたり、相殺されたり、他の要因とさまざまな仕方で相互作用したりするので、予言の可能性はほとんど無限である」と述べている⁵⁾。

現在広く知られている12星座占いは、これらの要素の中の太陽宮の部分のみを切り取った、簡略化された占術である。俗に“私は、獅子座よ”というのは、太陽が獅子宮を通過しているときに生まれたことを意味している。本来、個人が持つ他の9惑星および太陽宮以外の宮、12ハウスの要素はすべて切り捨てられているのが、12星座占いなのである。そうして簡略化することで12という適度な数のカテゴリー分けが実現出来、不特定多数の人物に定期的な運勢を提供できるという、商業的なメリットが生じるのである。

筆者は1992年にプロの占い師になり、主に西洋占星術とタロット占いをういて、約8年間を通して多くの人たちの鑑定をこなした。その後の2000年からは鑑定業から距離を置いて原稿執筆業に専念し、テレビ⁶⁾、雑誌、インターネットサイト等の様々な媒体において、“毎月の運勢”、“毎日の運勢”等を執筆し続けてきた。それらの依頼の約9割以上は、西洋占星術、つまり12星座占いをういての運勢診断の原稿であった。残りの1割弱の依頼は、九星気学や干支占い等、東洋占星術を用いた運勢判断である。このことから、日本において既に12星座占いがスタンダードとなっていることを実感し続けてきた。

科学技術の進歩が目覚ましい21世紀の現代の日本において、西洋占星術の末裔ともいえる12星座占いは、未だにメディア上で幅広く普及し、その勢いがとどまる様子が感じられない状況が続いているのである。

2. 研究目的

遙か遠くの天空に輝く惑星が、地球上で生活をする私たちに何らかの影響を与えるという理論に、現在の科学において根拠を探し出せないことは、自明の理である。それでも 20 年以上もの間、筆者は多くのメディアから 12 星座占いの執筆依頼を受け続けてきた。それは、それだけ 12 星座占いが、大衆から必要とされ続けているということに他ならない。何故、人々は 12 星座占いを必要としているのだろうか。日々星座占いの原稿を執筆し続ける筆者は、常にこのような疑問を心の片隅に抱え続けていたのである。また、過去にホロスコープを用いて大量の依頼者の鑑定を行った経歴から、本格的な西洋占星術に関しても、同様の疑問を抱え続けてきたのである。

そのことに対する仮説として、筆者は西洋占星術が人々のために何かしらのかたちで生活に役立っているために、現代においても廃れることなく存続し続けているのではないかと推論する。その“西洋占星術が人々のために役立っている理由は何なのか”という部分に焦点を当て、その理由を探ることが、本研究の最大の目的である。理由が解明されることで、西洋占星術の存在意義や本質が明確になると同時に、占いを求める人々の心理も見えてくるのではないかと期待する。

また、第二章の研究結果において、西洋占星術の発祥から 12 星座が生まれて現代にたどり着くまでの歴史を振り返るが、それによって 12 星座占いは雄大な歴史を背負う存在であることを確認する。それと同時に、12 星座占いに対して世間が持つ軽薄なイメージを、少しでも威厳と風格のあるものに変化させ、一つの確立した文化であることを理解してもらうことも、本研究の副次的な目的である。

本論

第一章：研究方法・実施

1-1：文献研究

1. 文献研究の対象

文献研究を行う対象は、主に“西洋占星術の歴史”と、“占いに対する科学的な見解”の2点である。

2. 西洋占星術の歴史

西洋占星術が持つ大きな特徴として、その歴史の長さが挙げられる。長い歴史を持つということは、現代の西洋占星術が形成されるまでに多くの時間を要し、それだけ多くの人たちが関わってきたことを示している。それと同時に、淘汰されずに現代まで残った何かしらの理由が存在することを意味している。その歴史を振り返りつつ、西洋占星術が持つ本質と、人々がどう西洋占星術と向き合ってきたのかということについて明確にする。そのなかでも、特に12星座占いの歴史に注目する。

西洋占星術の気が遠くなるような長い歴史を研究するためには、詳細な内容が記載された複数の文献が必要である。西洋占星術の歴史に関しては、昭和時代の古い文献が数多く存在している。しかし、歴史は未知であったものが解明され続け、常に変化し続けているため、古い文献では間違った説が掲載されていることが、往々にしてある。そのため、比較的新しい文献を中心にして、西洋占星術の歴史を解明していく。

3. 占いに対する科学的な見解

“何故、人は占いを信じるのか”というテーマに関する先行研究は、数人の学者によって、超心理学や文化人類学など科学的な視点から行われている。その中で、関連著書を執筆している大学教授の菊池聡（1998）、石川幹人（2014）、板橋作美（2013）の研究例を基に、文献研究を行う。そのなかにも、科学的根拠を見出せない西洋占星術及び12星座占いが、何故社会的に淘汰されずに現代に引き継がれているのかという理由が、存在していることを期待する。

後述する分析研究と質問紙調査によって、西洋占星術の有意性が認められない場合には、本研究において、特にこの研究結果が重視されることになる。しかし、科学的な研究発表を行う日本の研究者の中に、実際に多数のホロスコープを使用して実占を行った経験を持つ者は、ほとんどいないと想定される。

1-2：分析研究

1. 先行研究

過去から科学者や占星術師により、膨大な数の出生データを用いての西洋占星術の有意性の有無を調べた研究が、数多くなされてきた。例えば、スイスの精神科医であるカ

ール・グスタフ・ユング（Carl Gustav Jung, 1875-1961）は、日頃から患者のホロスコープを用いて精神鑑定を行っていた⁷⁾ 1人であるが、彼は180組の既婚カップルのホロスコープを調べ、女性側の月が、男性側の太陽とコンジャンクションを形成する率が、有意の差で高いことを見出した⁸⁾。また、1978年にはメイオウにより、性格と星座との間にはある関係があるという仮説が2324名の質問紙調査によって検証された。その結果、12星座における外向性と内向性の性質について、占星術の予測とまったく一致していたのである⁹⁾。このように注目に値する研究結果が複数存在するが、ユングの研究においては男女間のホロスコープの50以上の相を調べたため、その中の1つが有意な差であっても偶然であると指摘され⁸⁾、メイオウの研究においては、研究対象者の中に占星術の知識を持つ者が含まれていることが指摘された⁹⁾。このように、有意な差が出て周囲からの批判により、うやむやになった研究が大半であった。

そうしたなかで、フランスの心理学者ミッシェル・ゴークラン（Michel Gauquelin, 1928-1991）が見出した“火星効果”と呼ばれる研究結果は、西洋占星術の有意性を示す研究の中で、群を抜いて注目されている。この研究は、主に強靱な精神を持ち成功を遂げたスポーツ選手の火星が、ホロスコープ上のどこにあるのかを調べたものである。ゴークランは、こうした鉄の意志を持つスポーツ選手の火星が、出生ホロスコープのアセンダント付近、もしくはMC（Medium Coeli）と呼ばれる天頂付近に、高い有意の差で集中していることを見出したのである。また、科学者は土星が、卓越した医者は火星または土星がアセンダントもしくはMC付近に、有意の差で集中していることも突き止めた¹⁰⁾。繰り返し追試されたこの研究は、占星術に対して懐疑主義であるH.J.アイゼンク・D.K.B.ナイアス（1986）が、「誕生時における惑星の位置と人格との間に相関があることをはっきりと確証した」¹²⁾と述べるほど、信頼性のあるものであった。

古くから、赤い血の色を持つ火星は戦いの星とされ、占い上では怒りや闘争心、行動力など男性的なパワーを司るといわれ続けてきた。また、複数の占星術師が、日頃の鑑定や研究を通して、成功するスポーツ選手はホロスコープ上の火星の影響が強いと認識している¹¹⁾。このように、10惑星の中でも火星が表す力は、占星術師の間では認識しやすいものとして捉えられている。

2. プロ野球選手の火星と作家の水星の対比研究

西洋占星術のホロスコープが有意性を持っているのかを、自分自身でも多数のホロスコープ・データを集めて検証してみる。火星の影響が強いとされるスポーツ選手の中で、成功しているプロ野球選手のホロスコープのデータ分析を行う。2016年度版のプロ野球名鑑¹³⁾に掲載されている選手の中で、日本出生であり、9年間以上プロとして日本野球機構（NPB）に在籍している現役のプロ野球選手220人に、名球会入りをしている元選手52人¹⁴⁾を加えた272人の生年月日におけるデータ分析を行う。プロ野球の世界は大変厳しく、毎年多くの選手が戦力外通告を受けて解雇される世界である。そうした中で9

年間以上プロとして在籍できている選手は、高い能力を持ち成功している選手であると判断出来る。はじめは10年間以上の在籍の選手と設定したが、そうすると人数が少なかったため、9年間在籍の選手30人を追加した。

その対照群として、まったく違った性質を持つと思われる、成功している作家のホロスコープのデータ分析を行う。インターネットサイト Wikipedia の“日本の小説家一覧”のページ¹⁵⁾から、生年月日を公開し、プロ野球選手の年代と合わせて1940年以降の生まれであり、単書を10冊以上持ち、日本出生である専業作家454人を選定した。机の上で知恵を絞って日々静かに執筆を続ける作家たちは、行動力を司る火星の力は弱く、知性を司る水星の力が強いはずである。逆に、主に運動神経に依拠するプロ野球選手たちは、火星の力は強くても、水星の力はそれほど強くはないと推測される。この対極の職業で成功している人たちの火星と水星の状況に有意な差があるのかを、主な研究課題として調査する。

“火星が強い”という状況は、西洋占星術において、火星に他の多くの惑星がアスペクトを組んでいるということである。他の惑星がより多くアスペクトにより火星とつながっているほど、その人物の意識は火星に集中されるとみなされる。西洋占星術家のルル・ラブア(1982)は、「スポーツ界でトップ・プレイヤーとなるためには、まず運動能力・筋肉組織・肉体的エネルギーなどを表す火星が他の惑星から強力な座相を受けていることが必須条件です」¹⁶⁾と述べている。同時に、作家・小説家のホロスコープにおいては、水星が重要であることを強調している¹⁷⁾。そのため、両職種の火星のアスペクト数と水星のアスペクト数の平均数を求めて、それを比較検討してみる。

さまざまなアスペクトの中でも、スポーツ選手や作家に適したアスペクトとされるものが存在する。ルル・ラブアは、著書の中で「火星と木星の合、あるいは吉座相は、国際級のスポーツ選手が必ず持つアスペクト」¹⁸⁾と記述し、「水星と海王星の合」と「水星と海王星の吉座相」の項目では、これらのアスペクトを持つ人物は、詩人、作家、写真家に適している¹⁹⁾と記述している。それらを踏まえ、実際に成功しているプロ野球選手と作家が、これらのアスペクトをどの程度の割合で持っているのかを検証する。

それと同時に、全員の太陽星座、水星星座、火星星座も書き出し、それぞれを集計する。12星座は、火・地・風・水の4つのエレメントに、それぞれ3星座ずつ分類される。12星座占いでよくいわれる“スポーツマンは火のエレメント(牡羊座、獅子座、射手座)に多い”、“風のエレメント(双子座、天秤座、水瓶座)は作家に適している”という俗説に、信憑性があるかどうかを検証する。

1-3：質問紙調査

筆者自身、長らくさまざまな人たちのホロスコープを検証し続けてきたが、個人のホロスコープが持つ数多くの要素の中でも、特に高い的中率を持つ要素があることを実感していた。それは、月星座と金星星座が持つ性質である。

各惑星には、それぞれ役割分担がなされている。一般的に“私は〇〇座”という場合の星座は、太陽星座が何座であるか、ということを示すが、その太陽には主に、社会的・対外的な活動における個人の性質が示されるとされている。陰陽思想においても、太陽とは常に対照的であるとみなされる月は、個人のホロスコープ上では家族などごく親しい人にだけ見せる本質的な性質を示すとされている。そして、愛と美の星と呼ばれる金星は、女性のホロスコープ上では理想の自分像を、男性のホロスコープ上では憧れる女性像を示すとされる。男性的なパワーを持つといわれる火星は、男性のホロスコープ上では理想の自分像を、女性のホロスコープ上では憧れる男性像を示すとされている。

12星座占いが広く普及しているように、世間で最も注目されているのは太陽星座である。しかし、個人のホロスコープ上の太陽星座が示す性質よりも、月星座と金星星座の方が、より強く個人の性質を表しているように感じ続けてきたのである。それは、鑑定依頼者に太陽星座の性格を伝えると首を捻られることが多いが、月星座が示す本質の自分、金星星座が示す理想の自分像や憧れの女性像を伝えると、自然と受け入れられる場合が圧倒的に多いと感じ続けてきたためである。

今回の質問紙調査では、それがただの体感ではなく、実質的なものかどうかを数値として出すことを目的としている。太陽星座、月星座、金星星座、火星星座が示す性質が、実際に個人が意識している性質とどの程度一致しているのかどうかを知ることが、大きな目的である。一致率が高いと認識されれば、西洋占星術が示すこれらの要素は、有意性と実質性があるといえることになる。

① 調査対象および調査の実施

年齢制限はなく、国内出生のすべての人が対象者となる。アンケートのプログラム作成は、プログラマーの石田裕紀氏に依頼した。本調査は平成28年4月28日から5月15日を実施期間とし、「西洋占星術に関するアンケート」調査名目で、主にFacebookとTwitter、筆者が運営する仕事用のブログ上²⁰⁾にて協力を呼びかけた。

② 質問紙の構成

質問紙は、以下の内容で構成されている。

■ご自分の正確な生年月日、出生時間、出生地（都道府県）をご記入ください。出生時間が不明な場合は、「不明」とお書きください。「午前」「午後」「15時頃」等の書き方でもOKです。「夜」の場合は、午前か午後かの明記をお願いします。

1. 生年月日 西暦〇年〇月〇日（選択式）
2. 出生時間（記入式）
3. 出生地（選択式・各都道府県と”日本以外”）
4. 性別（選択式）

■ご自分が持つ性質について、最も適切と思う回答を、回答群から「よく考えて」お選びください。

Q1.外で人と会っている時のご自分は、どちらに近いと思いますか。1つお選びください。

A:行動的もしくはよく話す B:控えめもしくは静か

Q2.自宅で（家族と）過ごしている時のご自分は、どちらに近いと思いますか。1つお選びください。

A:行動的もしくはよく話す B:控えめもしくは静か

Q3.あまり人には見せない「本当の自分」は、次の中のどれが最も近いと思いますか。1つお選びください。（幼少の頃の性格をご参考になしてください）

A:真面目、労働好き、頑固でマイペース、金銭・物を重視する、食にこだわる。

B:理論的思考、話し好き、勉強好き、好奇心旺盛で深刻さが苦手、なるべく人と接していきたい。

C:情が深い、涙もろい、感情の浮き沈みが激しい、過去を重く考える、ひとつの物事に執着する。

D:気持ちの切り替えが早い、勝負好き、怒りっぽい、ジッとしていない、未来を見る。

Q4.女性は自分になりたいと思う憧れの女性像に最も近いものを、男性は最も惹かれる女性像を、次の中から1つお選びください。

A:情が深くて優しく繊細、家庭的で家族思い、弱い者に優しく献身的。

B:真面目で約束を誠実に守る、管理能力が高く頼れる、仕事熱心で稼ぎが多い。

C:夢に向かって前進する情熱家、強気でハッキリしている、ユーモアがある。

D:知性があり豊かな知識を持つ、社交上手で友人知人が多い、颯爽としたムード。

Q5.男性は自分になりたいと思う憧れの男性像に最も近いものを、女性は最も惹かれる男性像を、次の中から1つお選びください。

A:情が深くて優しく繊細、家庭的で家族思い、弱い者に優しく献身的。

B:真面目で約束を誠実に守る、管理能力が高く頼れる、仕事熱心で稼ぎが多い。

C:夢に向かって前進する情熱家、強気でハッキリしている、ユーモアがある。

D:知性があり豊かな知識を持つ、社交上手で友人知人が多い、颯爽としたムード。

Q6.ご自分の太陽星座（一般的な星座）の他に、知っているご自分の星座はありますか。（D以外は複数選択可）

A:月の星座 B:金星の星座 C:火星の星座 D:上記の星座は全て知らない

12星座は、“プラス星座”、すなわち陽の性質を持つ6星座（牡羊座、双子座、獅子座、天秤座、射手座、水瓶座）と、“マイナス星座”、すなわち陰の性質を持つ6星座（牡牛座、

蟹座、乙女座、蠍座、山羊座、魚座）に分けられている。プラス星座は男性的かつ能動的な性質を持ち、マイナス星座は女性的かつ受動的な性質を持つとされている。Q1では、個人が持つ感覚が、太陽星座のプラスかマイナスかに一致しているかどうかを判断する。Q2では、個人が持つ感覚が、月星座のプラスかマイナスかに一致しているかどうかを判断する。そのため、両方とも2択となっている。

Q3、Q4、Q5は、12星座を4分割したエレメント別で判断するため、4択となっている。火のエレメント（牡羊座、獅子座、射手座）は情熱的で能動的であり、地のエレメント（牡牛座、乙女座、山羊座）は現実的で受動的であり、風のエレメント（双子座、天秤座、水瓶座）は知的で社交的、能動的であり、水のエレメント（蟹座、蠍座、魚座）は情感豊かで受動的であるとされている。Q3では、月星座のエレメントと実際に本人が感じている内面の性質が、一致しているかどうかを判断する。Q4では金星星座のエレメントについて、Q5では火星星座のエレメントについて、Q3の月星座のエレメントと同様に判断する。

Q6は、この研究において極めて重要である。過去のメイオウの実証研究においては、研究対象者の中に占星術の知識を持つ者が含まれていることが指摘された⁹⁾ことを前述した。各惑星が何を示すのかなど、西洋占星術の知識を持つ人がこのアンケート内容を読むと、何を意図して作成されているのかが、一目瞭然である。そのため無意識にであっても、わざと当てるように、もしくはわざと外すように回答を選択するという“操作”が生じる可能性が極めて高くなる。このように、占星術の知識を持つ人が対象者に含まれると、研究自体が社会的に認められず、無意味なものとなる。そのため、自分の惑星が何座か知っている人と知らない人を明確に分けるために、Q6を設問した。

1-4：インタビュー調査

占いに関する科学的な研究に取り組む人の中で、実際に西洋占星術を使用して多数の人物を占った人は、特に日本ではほとんど見受けられない。確かに現在の時点では、西洋占星術に科学的な根拠を見出せていないため、科学の視点から占星術を含めた占い全般を否定するのは、いともたやすいことである。

しかし、実際に数多くのホロスコープに長時間接していなければ、その詳細かつ具体的な働き及び的中感を味わうことは出来ない。占いを実際に使用していない学者の意見を取り入れるだけでは偏りがある。そのため、ここでは実際に長年数多くのホロスコープ及び12星座占いに触れ続けてきた西洋占星術のスペシャリストたちに、西洋占星術の有意性、有用性に対する考えを伺う。

ご協力いただいたのは、星座占いの大御所であり13星座占いの創始者でもあるマーク矢崎先生、全国的に有名な占い雑誌『My Birthday』の編集を長く手掛けてきた説話社の田中誠子さん、占い学校“アカデメイア”の学長である森信彰雄さん、都内麻布十番で占いバー“燦伍”を運営する占い師の千田歌秋先生、若手イケメン占い師の代表的存在

である桜倉ケン先生、北海道内の代表的な占い師である羽妙先生、阪神大震災を的中させたことで有名な占術家の亡きお父様を襲名された錢天牛先生の7人である（詳細なプロフィールは後述）。本調査は、平成28年5月12日から5月18日にかけて実施された。

主に、以下の項目についてインタビューを行った。

1. 本格的な西洋占星術（ホロスコープ）における以下の項目について、感覚で何%程度の的中率があると思いますか。

① 個人の性格や性質 ② 個人の未来の運勢 ③ 社会的な未来の運勢（春分図等）

2. 12星座占いにおける「個人の性格や性質」について、何%程度の的中率があると思いますか。

① 個人の性格や資質 ② 雑誌などの未来予測

3. 何故今、12星座占いが流行っているのだと思いますか。思いつくままにお答えください。

4. 西洋占星術は本当に当たる、もしくは全く当たっていないと思った経験がありましたら、教えてください。

5. 科学的根拠のない西洋占星術（ホロスコープ）に、有意性があると思いますか。それとも、単にそう感じられるだけのものだと思いますか。その理由もお答えください。

6. 西洋占星術（12星座も含め）は何故、現代になっても廃れずに残り続けていると思いますか。思いつくままにお答えください。

上記の中で、特に5の有意性の有無に関しては、各々に詳細な意見を述べていただいた。

第二章：研究結果

2-1：文献研究の結果 2 西洋占星術の歴史

1：西洋占星術の発祥

西洋占星術の起源は、古代メソポタミアにあったといえる²¹⁾。チグリス・ユーフラテス川の下流域である南メソポタミア地域がシュメール（Sumer）地域と呼ばれ、シュメール人により最初の都市国家が建設された地域である。このシュメール人は、現在の段階で人種や言語系統などが不明な、謎に包まれた民族であるといわれている。彼らはシュメール語やアッカド語を表現するために、絵文字を簡略化した文字記号である楔形文字を発明し、粘土板の表面に割り箸状の筆で刻していった²²⁾。

楔形文字の解読が始まったのは、近代に入った1857年のことである。19世紀後半から急激なスピードで解読が進み、謎に包まれていた古代メソポタミアの歴史が、次第に明らかになっていった²³⁾。

天の現象に関する最初の記述は、紀元前2000年紀のものとされる『エヌマ・エリシュ』と呼ばれる創造神話の、楔形文字で記された粘土板に残されている。矢野（2004）によると、そこには以下のように記されているという。



写真1．[粘土板]（出典：近藤二郎『わかってきた星座神話の起源』）

「（それから）かれは偉大な神々のために落ち着き場を設けた。

かれらの似姿であるそれぞれの星、十二宮の星座を置き、

一年をさだめ、基礎的割りふりをしてから、

一二の月にそれぞれ三つの星座を配置した。（以下略）」²⁴⁾

矢野（2004）はこの記述について、「ひと月ごとの太陽の運動の目安になる一二の星座が注目されていたのは明らかである」²⁴⁾と述べており、既にこの頃から、黄道12星座が存在していた可能性があることを示唆している。しかし、月本（2010）は、「バビロニアの天文学において黄道十二宮が明瞭な形で登場するのは前5世紀以降である」とし、星座を十二カ月に割り振る発想は古いとしながらも、「この語が、当初から黄道十二宮を意味していたとは考え難い」と述べている²⁵⁾。確かに、黄道を12等分した12宮が最初と言及されたと思われるのは、紀元前419年のことである。しかし、早くも紀元前2000年紀には、黄道12星座のうちの10星座の名前が、“月の道”に位置するものとして、既に記録に含まれていたという²⁶⁾。古代メソポタミア地域では、現在までのところ星座や星の名前を具体的に記した初期の文字資料はほとんど発見されておらず²⁷⁾、黄道12星座の発祥については、未だに謎に包まれている部分が多い。

古代メソポタミアにおける広義の星占い、もしくは天の前兆占いが始まったのは、紀元前 16 世紀頃である²⁴⁾。それを伝えるのが、『エヌマ・アヌ・エンリル (Enuma Anu Enlil)』と呼ばれる、天文前兆占文書である。『エヌマ・アヌ・エンリル』は約 70 の粘土板文書からなり、全部で約 7000 もの前兆が記録されている、古代メソポタミアを代表する占星文書である²⁸⁾。これは紀元前 1000 年頃までの天の前兆を集めたものが、紀元前 7 世紀に刻まれた²⁹⁾ ものであり、「もし天で甲という現象が起こると、地上では乙という現象が起こる」という、パターン化された表現が続いている²⁴⁾。最初の 50 枚の粘土板は月や太陽、気象に関する前兆を扱い、残りの 20 枚が惑星や恒星に関わる前兆を扱っている²⁹⁾。王や国全体に関する予言が中心で、個人的な占断要素は含まれていないが、古代オリエント世界における、最初の占星術の手引書の役割を果たしていたと考えられる。このように古代メソポタミアでは、少なくともバビロン第一王朝時代（紀元前 1894—前 1595 頃）から、黄道 12 星座を用いない占星術を使用し始めていたのである²⁸⁾。

2：黄道 12 星座の起源

前述したように、黄道 12 星座がいつ誰によって考案されたのかという、明確なことは分かっていない。そうしたなかで、古代メソポタミアには現代の 12 星座の図像とよく似た図像が描かれた、クドウル (Kudurru) という高さが 1 メートルにも満たない石碑が存在する。クドウルとは、アッカド語で“境界”や“境界で囲まれた範囲”という意味を持ち、紀元前 14 世紀頃から約 700 年間にわたって作られ、これまでに 160 基あまりが見つかっている。

図 2: [星座の図像の原型] (出典・近藤二郎『わかってきた星座神話の起源』誠文堂新光社)



クドウルには、図 2 のような現在でも使用される黄道 12 星座のモチーフに似た図像が残されている。図 2 の左が射手座であり、中央が山羊座であり、右が魚座である。

しかし、クドウルに描かれた図像が星座の起源になったのではない。近藤 (2010) は、「星座の成立が、少なくともバビロン第一王朝時代にまで遡るものと考えたとクドウルに描かれた神々のシンボルは、それ以前に作り上げられていた星座の図像と関連していると推測できます」と述べている。

『わかってきた星座神話の起源』を基に、黄道 12 星座すべての起源について、その図

像を中心にして、大まかにまとめてみたい³¹⁾。

【牡羊座】

古代メソポタミアで紀元前 500 年頃に作成された、天文に関する粘土板資料群『ムル・アピン (Mul.Apin)』によると、牡羊座は“雇夫”と呼ばれる星座であった。春先に誕生する幼い羊や牛は、冬を超えて迎える春季の再生の象徴である。

カッシート王朝のメリ・シパク王（在位：紀元前 1186—前 1172 頃）のクドゥルに、麦の穂が上にある祭壇の前に座る羊が描かれている。

【牡牛座】

古代メソポタミア地域では、牡牛は神格化され、崇拝を集めていた。新石器時代には牛は家畜化されて繁栄と富の象徴となり、紀元前 4000 年紀になると、神と関連したものとなる。どのような経緯で牡牛座が形成されたのかは、未だに多くの謎が残る。『ムル・アピン』粘土板文書では、“天の牡牛”と記されたものが、今日の牡牛座である。星座としての牡牛座を表現した図像は、非常に少ない。

【双子座】

シュメール語で“大きな双子”と“小さな双子”という 2 つの表記があり、“大きな双子”の方が、目立つ星であるカストールとポルックスを示し、“小さな双子”が、双子座内のそれ以外の 2 つの星を示すとされている。“大きな双子”も“小さな双子”も、武器を手にした 2 人の武人の姿が残されている。

【蟹座】

カニはシュメール語では、“水の生物”を示すクシュ “K^usu”という語で示され、それにはカメやスッポンも含まれる。このことから、クドゥルに見られるカメとの関連が指摘できる。古代の占星術のテキストでは、蟹座は水との関連から、洪水を预言する星座であるとされていた。

【獅子座】

ライオンはかつて広範な地域に生息し、アッシリアやエジプトでは、王権の象徴とされてきた。『ムル・アピン』粘土板文書の星リストでは、“カニ”の次に、“ライオン”、“王”、“ライオンの尾”という 3 つの記述があり、これらを統合して現在の獅子座になると考えられる。ライオンが百獣の王であることから、占星術で獅子座は、王や王国の命運を握る星座であると考えられていた。紀元前 2 世紀頃の粘土板の図像は、ライオンが蛇に乗っている姿である。

【乙女座】

現代の乙女座は、古代バビロニアの星座である“^{うね}畝”と“葉”という2つの星座の組み合わせであり、そのため非常に面積が広い。獅子座であるライオンの尾をつかんでいる小さな女性が“畝”という星座であり、畝はシュメール語で“Ab-sin”と書かれ、“種をまいた畝”、“灌漑をした畝”などの意味を持つ。“畝”の背後に立つ葉を持つ女性が“葉”という星座であり、この葉はナツメヤシの葉であるとされている。この2つの星座は秋の農耕と結びつくという指摘があり、メソポタミアがある西アジアの主要穀物のムギは、秋に種まきをするのが一般的である。現在の乙女座の図像である麦の穂を手にした女神の姿も、メソポタミアで作られたものである。

【天秤座】

初期の天秤座は、蠍座のサソリの前足の部分であり、蠍座の一部であった。現在でも天秤座の2つの天秤皿は、サソリのハサミと完全に重なり合っている。左右の天秤皿のバランスで重さをはかる天秤の特徴から、天秤座は“均衡”、“公正”、“正義”などの象徴とされてきた。

【蠍座】

巨大な星座であるため、『ムル・アピン』粘土板文書では、“サソリ”、“リシ (Lisi) ”、“サソリの針”の3つが与えられている。リシとはシュメールの母なる女神リシであり、一等星のアンタレス (Antares) と同一視されていた。そのため、“リシ”は蠍座の心臓の部分を示す。“サソリの針”は、蠍座の尾尻の部分を示している。

【射手座】

現在の射手座の図像は、下半身が馬で上半身が弓を構える人間であり、古代バビロニアでは“パビルサグ (Pabilsag)”と呼ばれる姿であった (図2)。パビルサグは、シュメール語で“祖先の長”という意味を持つ。このパビルサグの図像は非常に多くのバリエーションがあり、馬の尾の他に蠍の尾を持つ図像も多いほか、翼を持つものや、人間の後頭部に犬の頭がついているものも存在する。このパビルサグは、しばしばシュメールおよびアッカドの最高神であるエンリル神の息子の、ニヌルタ神と同一視されている。この図像がいつ誕生したかは不明である。

【山羊座】

現在の山羊座の図像は、“ヤギ魚”と呼ばれる上半身が山羊で下半身が魚という、射手座と同様に空想上のものである (図2)。カッシート王朝のメリ・シパク王 (在位：紀元前1186ー前1172頃) のクドゥルにも描かれ、知恵の神のエア神 (アッカド語：シュメール語ではエンキ神) を表現している。射手座と同じく、この図像がいつ誕生し

たかは不明である。

【水瓶座】

古代バビロニアの“偉大なるもの”という意味を持つ“グラ (Gula)”が元型である。アッカド王朝時代（紀元前 2350 年頃—前 2100 年頃）の“裸の英雄”が水の神エンキと結びつき、水が流れる壺を両手に持つ“偉大なるもの”という人物の姿で描かれるようになる。壺から流れる水は降雨の増大と河川の氾濫を象徴し、“偉大なるもの”は灌漑も意味する。その足元に、みなみの魚座である魚が描かれている図像も残されている。

【魚座】

現在の魚座の図像である 2 匹の魚が縄で結ばれた姿は、“尾”と呼ばれる 2 匹の魚が元型であると考えられる（図 2）。左側の魚は、北魚という意味の“アヌニムツ (Anunitum)”と呼ばれ、これは“みなみのうお”に対して命名されている。右側の魚は、しばしばツバメとして描かれている。2 本の縄はチグリス川とユーフラテス川を示し、それが合流して海へ注ぐ河川が、“シャトル・アル＝アラブ (Shat al-Arab) 川”である。2 匹の魚の間には、長方形の大きな空間が存在する。これは、天空のペガスス座の秋の大四辺形であると同時に、長方形である古代バビロニアの拠点となった都市・バビロン市、もしくは広い耕作地などを表すといわれている。

3：西洋占星術のシステムの構築時代

粘土板に天の前兆を集める状態が長く続いたあとの、紀元前 750 年頃から紀元前 2 世紀にかけては、西洋占星術のシステムが具体化かつ詳細化していった時代である。

紀元前 750 年頃から、天文現象を単に記録するだけの時代から、観測結果を数値化して、未来予知を試みようとする時代へと移り変わっていった²⁴⁾。年代が確定でき、信頼できる観測記録が残されるようになったのも、この頃からである。

紀元前 539 年にペルシア人が新バビロニア帝国を征服したのち、アケメネス朝時代（紀元前 539—前 331 年）に黄道が 30 度ごとに 12 分割され、現在西洋占星術で使用されている 12 宮が成立した。それは、天文学の日録や、他の同様なテキストの精度を増大させるためであった³²⁾。また、1 年が 12 か月から成る太陰太陽暦との間に、何らかの関係があったことも確かである²⁶⁾。黄道 12 宮の記述が認められた現在見つかった最古の史料は、紀元前 419 年の楔文字による粘土板である³³⁾。

現存する個人の出世時のホロスコープで最も古いものは、紀元前 410 年のものと推定される。この年のホロスコープが複数発見されており、現在は 32 個のバビロニアのホロスコープが見つかった³²⁾。既にこれらの中には、12 宮に関する記述が存在していた。

紀元前 3 世紀のセレウコス朝になると、バビロニアの天文学も進み、ホロスコープ

上でも惑星の位置が角度で明確に示されるようになる。抜粋すると、“…木星は人馬宮の18度にあり…”という具合である³³⁾。それまでは王や国全体に関する予言が主流であったのが、この頃から個人の運勢に関する記述が登場し始めたのである。

紀元前4世紀に、マケドニアのアレクサンダー大王が世界制覇を目指し、各地を制圧した。その足跡に沿って出来た広大な領域で、ギリシアとエジプト、インドの文化が融合し、ヘレニズム文化が出来上がった。それを機に、12宮を中心とする黄道座標と共に、メソポタミアの星座の多くがギリシアに伝えられた³⁴⁾。ギリシアで西洋占星術が始まったのは、紀元前3世紀以降であると見られている³⁵⁾。その後、ヘレニズム圏に広がったバビロニアやエジプトの占星術師の後裔は、紀元前2世紀頃、ローマの領域が拡大されるにつれて、ローマ人社会の中にも流れ込んだ³⁶⁾。こうしてローマ人たちにも、バビロニアの占星術が受け入れられていったのである。

こうした流れの中で、古代ギリシアの哲学者・アリストテレス (aristoteles, 紀元前384—前322) の存在は、西洋占星術史において非常に重要である。アリストテレスは、人間が住む地上である“月下界”は、火地風水の四元素で成り立ち、常に変化し続けていると唱えた。それに対して月を越えた上にある“月上界”、すなわち宇宙は、第五の元素エーテルで満たされている、不動の完全な世界であると考えた³⁷⁾。こうした思想がアリストテレス学派を生み、長く天文学と西洋占星術の歴史に、影響を与え続けることになる。

紀元後2世紀、ローマ治下のアレクサンドリアの天文学者・クラウディウス・プトレマイオス (Claudius Ptolemaeus, 83年頃—168年頃) は、有名な天文学書『アルmagest (Almagest)』の他に、占星術書『テトラビブロス (Tetrabiblos)』を著した。この原題はもともと違うものであったが、“四部からなる書物”という一般名称が、書名として用いられるようになった。『テトラビブロス』の第一巻には、占星術の基本術語の説明が、第二巻には気候、地理、日月食など、第三巻には出生ホロスコープについて、第四巻には重要な行為の開始時で占う“開始占星術”と呼ばれる分野について、記述されている³⁸⁾。プトレマイオスはこの著書により、過去の観測・記録から伝達されてきた天の前兆内容を参照し、単純な雑占であった占星術を合理化・組織化しようとした可能性があると思われる³⁹⁾。

『テトラビブロス』によって、西洋占星術は初めて具体的かつ詳細に体系化された。例えば月、金星、木星は“吉”、火星と土星は“凶”、太陽と水星は“中庸”の性質を持つと定義づけられ、7つの惑星それぞれには、その力を最大限に発揮できる“高揚位”の星座宮と、その180度先にありその惑星の力が最も弱まる“失墜位”の星座宮という“品位”が与えられた。また、序論にて前述したアスペクトの概念や、ホロスコープの12室の各ハウスが示す支配領域の内容も、『テトラビブロス』による定義である⁴⁰⁾。このような『テトラビブロス』によって構築された西洋占星術の体系化は、その後ほとんど否定や改定をされることなく、現代でも西洋占星術の土台として、揺るぐこと

なく保持し続けている。

このように、紀元前 750 年頃から紀元後 2 世紀にかけては、それまでは単なる記録の羅列であり明確な形を持たなかった西洋占星術が、次第に理論化し、システム化していった時代であった。緩やかに数世紀もの時間をかけておぼろげにまとまってきたものを、プトレマイオスがこじつけといえる部分も含めた強引な形で、一気に現代に続く西洋占星術の規則をまとめ上げたのである。

4：キリスト教における弾圧

西洋占星術の歴史のなかでも印象深い出来事は、キリスト教における弾圧であった。5 世紀から 11 世紀まで、キリスト教が支配するヨーロッパで西洋占星術は途絶える。しかしその間も、ペルシアとインドでは、西洋占星術は創造的活動の中心であり続けた。

この頃の西洋占星術は、“自然占星術”と“判断占星術”に分けて捉えられていた。自然占星術とは、“土星は冷たい星である”という各惑星が持つ性質や、月の満ち欠けが、戦争や疫病の蔓延などの社会的な動きや、医療に影響を与えるという占星術である。医療に携わる者は、天文学を知る必要性があるという社会的認識があった。判断占星術とは、星の動きによって個人の未来を予測するなど、人生の細部を知るための道具にするという占星術である。自然の影響力だけを考慮する自然占星術は批判されることが少なかったが、ホロスコープを使った複雑な解釈を必要とする判断占星術は、常に批判の対象となった⁴¹⁾。

紀元 312 年にローマ帝国の皇帝であるガイウス・フラウィウス・ヴァレリウス・コンスタンティヌス (Gaius Flavius Valerius Constantinus, 272–337) がキリスト教に改宗すると、ローマ帝国のキリスト教化が始まった⁴²⁾。それまでローマでは、しばしば西洋占星術に対する法的規制が試みられていたが、5 世紀初頭に神学者のアウレリウス・アウグスティヌス (Aurelius Augustinus, 354–430) により、西洋占星術は悪魔的であると糾弾された。その後にヨーロッパにおける西洋占星術は、衰退の一途をたどった。“未来に起こることを、キリスト教の神以外の者が知るはずがない”という神学的視点から、西洋占星術が批判されたのである。この頃、最高の権威として認められていたのは聖書であった。『ヨハネの黙示録』の中で、ニューエルサレムでは太陽も月も星もないと予言されていたため、占星術は存在意義がなかった。中世においては、自然現象よりも聖書に対する関心の方が高かったのである⁴¹⁾。

法律違反だと宣告されるのは紀元 403 年以降のことだが、その法律は以前よりも厳しいものであった。魔術と占いは同一視され、5 つの主要犯罪の 1 つとなり、死刑となった。409 年にすべての占星術師が、司教の立ち合いの下で書物を焼くように命じられた。425 年には占星術師たちも異端者と一緒に追放令の対象となり、今や未来を見通すことは、キリスト教の神にしか許されないという意識が広がっていくこととなった⁴²⁾。

タムシン・バートン (2004) は、「占星術師たちが少なくとも五世紀から十世紀の間は、帝国の東半分においてさえ、人目を忍んで生きていたらしいことは確かであるし、西方では五世紀以降、占星術は完全に姿を消したようだ」と記述している⁴³⁾。しかし、中世前期に完全に占星術が消えてなくなった訳ではない。民衆の中には雑占として混在し、潜伏していたのである⁴⁴⁾。

水面下において、下流占星術と分類される大衆向けの占星術が途絶えたことは、一度もなかった。9世紀には、現在の雑誌の占い記事に見られるような、日付や月齢を基にした計算による、日々の吉凶が記された『ルナーリア (Lunaria)』という書物が人気であった。病人の具合が悪くなる日が特定されたほか、家畜の交配、物品の売買、手術に良い日等、様々なアドバイスが掲載されていた。上流階級による西洋占星術の哲学議論とホロスコープは廃れたが、神学的思想に無関心な大衆レベルでは、簡易的な占星術が盛んに行われていたのである⁴⁵⁾。

5：西洋占星術の復興

11世紀以降は、ヨーロッパにおける西洋占星術の復興の時代である。1030年頃までに、アストロラーベ (Astrolabe) と呼ばれる天文観測儀が西ヨーロッパに持ち込まれ、天体の動きを遥かに詳しく観測することが可能となった。また、12世紀と13世紀に紀元前4世紀のアリストテレスの大半の著作がギリシア語から翻訳され、入手可能な宇宙論に関する文献が大幅に増えた⁴⁶⁾。その後、ハウスの位置を示す室項表と、天体の位置を示す天文暦が作られ、それまで5時間かかっていたホロスコープが数分内で描けるようになり、占星術の復興に拍車がかかった⁴⁷⁾。翻訳によるアリストテレス主義の思想が与えた影響は大きく、革命的な結果を導いたのである。この頃、神学者トマス・アキナス (1224頃－1274) は、著書『対異教徒大全』と『神学大全』において、“星が司るのは肉体であり、神に対して応答するのは魂である。よって、占星術とキリストはお互いに矛盾しない”という考えを示した。こうして占星術は、物理的な事柄であれば道徳的な内容である限り、大半は許容されることになった⁴⁸⁾。西洋占星術を悪魔的だとする教会の糾弾は、12世紀から13世紀にかけて、すべてが変わっていったのである。

12世紀から約5世紀の間は、西洋占星術は文化の中心であり続けた。この頃はまだ天文学と占星術は区分けされておらず、天文学者は同時に占星術師でもあった。西洋占星術は上流階級にも広がり、イギリス王リチャード2世 (在位 1377－99) やフランス国王シャルル5世 (在位 1338－80) が、占星術を熱心に支持したほどであった⁴⁹⁾。この頃、ダンテの作品の登場する占星術師マイケル・スコット (1135－1232) の宇宙論の入門書『占星術入門』では、星座が用いられ、それによって12宮の星座の解釈の幅が広がった⁵⁰⁾。

14世紀はヨーロッパ全土が混乱の時代であり、なかでも1347年から1351年にかけて

て蔓延したペストは、ヨーロッパの総人口の 3 分の 1 から 3 分の 2 の命を奪う壮絶なものであった⁵¹⁾。その他にも英仏間の百年戦争、ローマ教会の大分裂や魔女狩りが起こり、かくして人々は、民衆も貴族もこぞって救いを求め、占星術に飛びついた。長島・ORG (1999) は、「ある意味、この時期がもっとも占星術が栄えた時期といえるかもしれない」と述べている⁵²⁾。

1474 年に占星術師に対する最初の裁判が行われるなど、判断占星術への規制は続いていた。しかし 15 世紀は占星術を用いた最先端の予言を求める風潮が強まり、国際都市から地方都市へと西洋占星術は広がっていく。特に実用面では、医学への応用が最も人々に望まれていたようだ。冷の症状に悩まされる土星気質の人には、火星の資質である熱を表すものが処方されたり、脳が膨張する満月の夜には頭蓋骨の手術を避けたりと、医者疑問を持つことなく、患者の治療に占星術の理論を取り入れていた⁵³⁾。

15 世紀半ばの活版印刷術の開発も、西洋占星術の普及に一役買った。ポルノと占星術という印刷業の二大ブームが訪れ、『アルマナック (Almanac)』と呼ばれる占星術年鑑がイタリアで大量印刷された。それがヨーロッパ全域に広がって急速に普及し、ブームを巻き起こしたのである。『アルマナック』には春分図による終末論的な予言が書かれ、月齢付きの暦や、豚の屠殺やヘアカットに良い時期など、さまざまなアドバイスが盛り込まれていた。壁にかけるタイプの『アルマナック』には、旅行や商談、病院での診断にお勧めの日がリストになっていた。日時計の製作方法やホロスコープの解釈法も記載され、独学で知識を得た人々がプロの占星術師となり、占星術の需要は増えていった。この活況は、17 世紀半ばまで続くことになる⁵³⁾。

6：西洋占星術と天文学との分離

天文学と占星術がまだ分離していない 15 世紀から 16 世紀にかけては、ティコ・ブラーエ (Tycho Brahe, 1546–1601) やヨハネス・ケプラー (Johannes Kepler, 1571–1630) など有名な天文学者も、占星術に携わっていた。地動説を唱えたことで有名なニコラス・コペルニクス (Nicolaus Copernicus, 1473–1543) も占星術を学んでいた天文学者の 1 人であり、彼は『アルマナック』の制作を手伝っていた。コペルニクスは、惑星が周転円という不規則な軌道を描くなら、プラトンが説いた真円の動きが正しい訳ではないと考え、地球を宇宙の中心から外して太陽に置き換えることで、問題が解決することに気がついた⁵⁴⁾。それは 1503 年のことであり、太陽中心説を提唱した『天球の回転について』を出版したのは、1543 年になってからのことである。それはキリスト教の思想に反した仮説だったが、この本が彼の死とほぼ同時に出版されたことと、序文にあくまでも数学的な仮説であるという説明文があったために、カトリック教会はこの本を大目に見たのである⁵⁵⁾。

しかしその後、西洋占星術の土台でもあり、教会が聖書を基に支持している天動説の立ち位置は、次第に揺らいでいく。ティコ・ブラーエが 1572 年に新星を発見すると、

“月上界は本質的に完璧であり不変である”というアリストテレス派の宇宙論は、強い衝撃を受けた。遙か昔から信じていたものが、崩れてしまったのである⁵⁶⁾。

ケプラーは、伝統的な占星術に通じており、72度の“キンタイル (Quintile) ”、36度の“デサイル (Decile) ”という新アスペクトや、予測技法の1つである“プログレッション (Progression) ”を生み出した人物である。1605年にケプラーが発表した3つの惑星運動の法則のうち、第一の法則は“惑星は(太陽を焦点とする)楕円軌道上を運動する”であり、それは1609年の『新天文学』に著された。それによって真円運動はお払い箱となり、古い宇宙観を根底から覆すものになった⁵⁷⁾。

1609年、イタリアの天文学者であり大学の占星術の主任教授を担っていたガリレオ・ガリレイ (Galileo Galilei, 1564–1642) が、初めて望遠鏡を用いて天体観測を行った。彼は20年以上も前からコペルニクスの地動説を支持していたが、天動説を支持する教会を恐れ、その公開には慎重だった。1600年には、コペルニクス説を支持した哲学者が異端審問所により、火刑に処されていたのである⁵⁸⁾。

ガリレオは、木星の周りを4つの衛星が回っていることを発見した。それによって、さらにアリストテレス派の天空の不変性の教義が崩れ、宇宙全体が変化の可能性に満ちていることを認めざるを得ない状況に追い込まれた。ガリレオはその後、太陽の自転、太陽の黒点、金星の満ち欠けという3つの発見をしている。これらにより、教会が支持するアリストテレス派は、存続の危機に追い込まれた。金星の満ち欠けは、金星が太陽の周りを回っていることを意味し、コペルニクス派に観測に裏付けられた根拠を与えたのである。ガリレオはその後の1613年、『太陽黒点論』を出版し、公にコペルニクス派の考えを擁護するに至った⁵⁹⁾。

ガリレオやケプラーが生きた17世紀のヨーロッパは、近代科学成立への胎動期であり、今日の科学史家が“科学革命”と呼ぶ時代である⁶⁰⁾。特に1609年から1610年の一年間は、近代の幕開けと呼べる革新的な瞬間であった⁶¹⁾。

こうして天動説は衰退し、天動説を信望していた教会側は、窮地に立たされた。それと同時に、天動説を基盤として構築されている西洋占星術は、その根拠を失った。それによって、それまで混同されていた天文学と占星術の間には食い違いが生じて断層線が出来、それぞれが違う方向へと進んでいくことになった。長島・ORG (1999) は、「なにが占星術を歴史の表舞台から引きずりおろしたのか」というと、それはやはり科学なのである」と述べている⁶²⁾。科学とは経験的実証の学問であり、実証出来ることが真実であって、それ以外は否定されるか無視されてしまう⁶²⁾。17世紀の終盤には、西洋占星術は科学の力により知的な場から放逐され、立ち位置を模索することになったのである。

7: 12星座占いの発明と普及

17世紀と18世紀は科学が台頭し、啓蒙思想が主流となり、迷信の時代が終わりを迎

えたと特徴づけられる時代である。占星術が盛んに行われた約 5 世紀にわたる時代が終わり、ホロスコープを用いる判断占星術は、17 世紀後半に衰退へと向かっていった。宇宙観の変遷の結果、理論的根拠を失った西洋占星術は、当てにならないものと映るようになり、西洋占星術の信頼は明らかに揺らいでいた。しかし、不思議と西洋占星術が、完全に消滅することはなかった。その後、天動説の宇宙観をモデルに持つ占星術は、“地球から、そう見えるもの”という宇宙に基づくものとして、再編成されていくこととなる⁶³⁾。

そうしたなかで、『アルマナック』の社会的評価も下落したものの、その勢いは衰えることがなかった。発行部数は年間に 30 万部を超え、その膨大な部数の売り上げは、その後の 2 世紀も続いた⁶⁴⁾。占星術への信頼を失った上流階級層と、一般大衆の両者の文化の間に、隔たりが生じていったのである。『アルマナック』は盛んだったが、占星術関連の書籍は消滅し、1700 年から 1790 年の間で 6 冊しか出版されなかった⁶⁵⁾。

自然占星術と判断占星術に分かれて捉えられていた西洋占星術は、もはやその境界線はあやふやになり、占星術はすべて迷信とみなされるようになった。占星術は形式的に呪術的なものとなり、エリート層の間では次第に禁忌となり、18 世紀の哲学者からはますます否定された。このように、占星術は 18 世紀初期から怪しい馬鹿げたものというニュアンスを持ち始め、それは 21 世紀の今日まで変わることなく続いている。

このような状況において、20 世紀以降の西洋占星術に活気を与えることに大きな貢献をしたのは、占星術師のアラン・レオ (Alan Leo, 1860–1917) である。19 世紀後半には“太陽生物学”という自然主義的な流派により、出生時の太陽の位置を基に、個人の性格が分析されていた。その流れを汲み、アラン・レオは 1890 年代から 1900 年代にかけて、出生ホロスコープの太陽星座のみを用いる占星術を確立させる。その太陽星座は誕生星座と呼ばれ、巷のメディアでは“星座”として通ることになる。この発明が、現在において広く流通している“12 星座占い”という、大衆文化における商業的な西洋占星術の概念を広めることにつながった⁶⁶⁾。

1930 年、イギリスの新聞の『サンデー・エクスプレス』紙が、マーガレット王女の誕生時に、新聞紙上初のホロスコープを掲載した。その後、占星術のコラムの連載を開始し、世界中に模倣者を輩出させることになる。これは当時において画期的な試みであり、この記事がきっかけとなり、占星術が表舞台へと戻ってくる。タムシン・バートン (2004) は、「不死鳥を思わせる占星術の復活の媒体となったのは、疑いの余地なく新聞紙上のホロスコープであった」と述べている⁶⁷⁾。

『サンデー・エクスプレス』に占星術のコラムを執筆した R・H ネイラーは、向こう一週間の日付の誕生日の人に向けて、それぞれ 50 語ほどのコメントをつけた。こうした誕生日占いは 1850 年代から人気があったが、それまでは大衆紙に取り入れられたことはなかった。その後、ネイラーは新聞紙上で航空機事故の予言を当てるなどして注目され、新しい占星術は驚くべき早さで普及していった。ネイラーは、占星術の将

来の商業的な価値を高めたのである⁶⁸⁾。

それから数年の間に、読者の増加を目指す新聞は必ず星占いを掲載するようになった⁶⁹⁾。こうして太陽星座のコラム誕生と共に、占星術は中世以前とはまた違った形態により、世界中の注目を集めるようになった。

17世紀に古い宇宙論が終わりを告げてから400年ほど経った今日、12星座占いは繁栄を見せている。同時に、ホロスコープを用いる本格的な西洋占星術も、21世紀へと生き残った。天動説が完全に否定されている昨今でも、占星術は強く反証されることなく、現在も4000年以上にわたる歴史を引き継ぎ続けているのである。

8：継続する大衆文化の西洋占星術

ここまで、西洋占星術の発祥から現代までの流れを時系列で記述し、現在広く流布している大衆文化である12星座占いにまで辿り着いた。ここでは再度歴史を振り返り、12星座占いと同一役割を持つと思われる大衆文化の西洋占星術について、見直しておきたい。

18世紀以降の西洋占星術は、“上流占星術”、“中流占星術”、“下流占星術”に分類されていた。哲学者や思想家が扱う占星術は上流にあたり、医学や法学のように主に職業的にホロスコープを作成するのが中流と呼ばれ、『アルマナック』や民間信仰という大衆文化の占星術が、下流に含まれた。西洋占星術が根拠を失ってから上流と中流は姿を消したが、下流占星術はそうした変化にまったく構うことなく、元気に生き残り続けたのである⁶⁹⁾。

9世紀の『ルナーリア』、15世紀以降の『アルマナック』という下流占星術が、大衆からの人気を博していたことは前述したが、西洋占星術が危機に瀕したどの時代も、こうした下流占星術は一度も衰えたことがなかった。神学者たちが“未来を知ることができるのは、キリスト教の神のみである”と主張しても、自分がどのような行動を取るべきかを知りたい人たちにとっては、それは無意味な説だったのだ。多くの人々が、崇高な理念よりも日々の雑事を上手く進めることに、心を砕いていたのである。そうした中で、いつ何を行うべきかという具体的な指針を与える『ルナーリア』や『アルマナック』、民間信仰は、大いに役立っていたといえる。

20世紀初頭にアラン・レオが生み出した太陽宮による12星座占いも、そうした下流占星術の流れを汲んでいる。それは現代においても大いに繁栄し、かつてのように、人々に指針を与え続けている。大衆は常に自分の行動の指針として、こうした簡易的な占いを求めてきたことがうかがえる。

本研究の最大の目的は、“西洋占星術が人々のために役立っている理由は何なのか”という部分に焦点を当て、その理由を探ることであった。ここでは、“やはり西洋占星術は、人々のために役立っている”ということが、確認できたのではないと思う。

科学技術を持たない古代においては、天空の星々の動きは、神からのメッセージと

して重視され、国家や王の未来を予測するものとして、役立てられてきた。その後、遅くともホロスコープが作成された紀元前 5 世紀から、科学技術が発展した現代に至るまでは、個人的な性質や運勢を占うものへと変化していった。古代から人間は変わることなく、こうした“占い”を通した指針を求めてきたのである。

9：西洋占星術の歴史・まとめ

紀元前 2000 年紀の古代メソポタミアで、星の動きから運勢を占う西洋占星術が発祥し、2 世紀にプトレマイオスにより本格的に体系化された。その後、キリスト教における弾圧、科学の発展による天文学との分離など、西洋占星術はさまざまな出来事乗り越えてきた。そして約 4000 年後の現代においても、途絶えることなく存続している。文献研究であるこの“西洋占星術の歴史”の項目において、“研究目的”に記載した、「12 星座占いは雄大な歴史を背負う存在であることを確認する」という目的が、達成出来たのではないかと思う。

歴史を振り返り、その構築の過程から西洋占星術の科学的根拠を見出すとすれば、古代メソポタミアで粘土板に、“あの星があそこにあると、こうした出来事が起こった”という、天の前兆を集める状態が長く続いたという点である。それらの大量の記録の集結を基盤に、プトレマイオスが現代でも西洋占星術の基礎となっている『テトラビブロス』によって占星術を体系化したのであれば、それは単なる思いつきから生まれたでたらめな内容であるとはいえないだろう。“占星術は、統計学的である”といわれることが多いのは、ここに理由があると思われる。

しかし、プトレマイオスによる 12 星座や惑星の性質の決定づけの方法は、詭弁ともいえるこじつけが大半であると想像される。“高揚位”と呼ばれる各惑星が最大の力を発揮する星座の決定方法を例に挙げると、太陽は春分の日から昼が夜より長くなり熱の力が増大するため、春分点にある白羊宮、すなわち牡羊座を太陽の高揚位としている。そして、遠くにある土星は冷たく太陽と正反対の性質を持つため、白羊宮の対極に位置する天秤宮が土星の高揚位であると定めている。熱が特徴である火星は、最も南に位置する磨羯宮が高揚位であり、金星は湿気を持つため、春の初めの湿り気を示す双鱼宮が高揚位であると説明している⁴⁰⁾。これらは理論づけられているように見えて、こじつけに近い発想であることは容易に想像できる。

また、西洋占星術の科学的根拠を否定するもう一つの大きな点として、地球の“歳差運動”が挙げられる。地軸も微量に回転しているため、春分点は 72 年に 1 度の割合で黄道を逆方向に移動し、約 25800 年で一周する。この歳差運動により恒星が黄道上で徐々にずれていき、現在は恒星が作り出す 12 星座と、黄道を 12 分割した 12 宮とは、約 1 星座分のずれがある。このため、西洋占星術で使用する 12 星座は、実際に天にある星座とは、ほとんど関係がない状態となっているのである⁷⁰⁾。

その上に、古代メソポタミアの粘土板に記載された前兆文は、主に惑星や恒星、気

象についての言及であり、黄道 12 星座については一切触れず、まったく記録が残されていない。歳差運動のことも含め、星座に関しては根拠が見出せない状態である。

このように、ごく一部を除いて明確な科学的根拠を見出せない西洋占星術が、何故廃れることなく現代も人々から求められ続けているのだろうか。その理由は、この他の研究結果からも探っていきたいと思う。

2-1：文献研究の結果—3 占いに対する科学的な見解

1：占いが必要とされていると考えられる理由

六曜は迷信であると分かっているにも関わらず、現代においても結婚式を挙げようとすると、やはり大安吉日を選ぶ人が圧倒的に多い。また、子供が生まれると多くの親が、姓名判断の本を読みあさる⁷¹⁾。このように、占星術以外にもさまざまな占いが社会に浸透している。大学のある調査によると、占星術などの占いを“信じますか？”と尋ねると、否定的な回答が多い場合でも、占いは“人の行動を予測する上で役に立つと思いますか？”と尋ねると、肯定的に答える人の割合が増えることが分かったという⁷²⁾。一見矛盾するが、占いを信じていなくても、役立つと考えている人は多いのである。

板橋（2013）は、12 星座占いを含めたカテゴリー分けされる占いを信じる心理について、詳細に述べている。世界の創生において『旧約聖書』でも日本神話の『古事記』でも、まずは混沌とした世界が存在していた。神がそこに天と地を創造し、そして陸と海、光と闇と、次々と分別していったのである。また、中国では混沌とした世界が陰と陽に分かれたとされている⁷³⁾。このように、分類することによって世界は秩序付けられていったと考えられている。人間は混沌には耐えられず、常に経験に何らかの秩序を求める生き物であり、⁷⁴⁾ いわゆるカテゴリー分けをすることにより、安心感を覚えるのである。板橋（2013）は、「世界を秩序化するとは、世界に論理を持ち込むこと、世界を意味で満たすこと、ものごとに理由や説明を与えることである」⁷⁵⁾ と述べている。その具体的な方法が、カテゴリー分けなのである。

カテゴリーの規定方法は、カテゴリーに含まれる要素は何らかの共通属性を持っていること、1つのカテゴリーに含まれる各要素は、互いに類似性で結ばれているとすること、2つの見方がある⁷⁶⁾。分類秩序から外れるものには異質性を感じやすく、人々が異常と捉えたものも含まれるという⁷⁷⁾。

西洋占星術のほか、血液型占いや干支占いなど多くの占いはカテゴリー分けされている。板橋（2013）は、ある人物が血液型 A 型であると分類されることに対して、「自分は A 型人間の一人であり、同類がほかにたくさんいるのだともとらえる。その結果、オンリー・ワンとしてのかけがえのない私だが、風変わりな存在ではなく、同類の仲間がいると思えるのだ」、また『〇〇』タイプですと占いに言ってもらえると、私が確認できたように思うのだろう⁷⁸⁾ と記述している。分類されると、人は分かった気になるのである。

また、占いが科学では補えない点を補っていることで、社会から排除されずに必要とされ続けているという考えも示されている。それは、占いが“偶然”を扱っているという点である。科学にとっては、偶然は考察の対象になり得ないが、宗教や占いは偶然に意味を見出そうとする⁷⁹⁾。占いは、偶然を人間の理解が可能な形で、具体的に位置づけてくれる。偶然に対処するために占いがあり、占いは人間が取りうる、偶然への唯一の対処法なのである。偶然の積み重ねで生を受け、偶然としか言いようがない出来事の結果である人生を歩んでいる自分を説明してくれる⁸⁰⁾。過去の出来事にしても、例えば科学的に説明されても、それだけでは納得出来ないことがよくある。例えば事故で家族が亡くなった場合、事故の原因が特定されても、それだけでは納得できない。何故身内が事故に遭わなければならなかったのか、遺族はその理由を知りたいだろう。それに対して、科学は無力である⁸¹⁾。不幸に見舞われたときに、人はそれを受け止めることができず、何とかその理由を説明して欲しいと願う。それは幸福を得たときも同じであり、その理由が分かればその幸せを逃すことなく持ち続けられる。そのようなとき、占いが説明を与えてくれる。占いは、未来の出来事とその出来事が起きる理由を同時に示してくれるのである⁸²⁾。板橋（2013）は、「科学はどれほど進歩しても、私と私の人生を、決して説明してくれない。（中略）それに答えてくれるのは占いだけと言ってもいいだろう。宗教や哲学もそれに答えてくれるだろうが、占いの方がずっと直接的、具体的に説明してくれる。（中略）自分の幸福も不幸も理由のあるものとして説明される」⁸³⁾と記述し、人々が占いを求める1つの理由として挙げている。このように、人々にとって占いにしか果たせない役割が存在するため、社会からは淘汰されないということである。

また、中山（1993）は著書『占星術—その科学史上の位置—』の中で、「なんといっても占星術は『役に立つ』」と記述している。日の吉凶を見て旅行や作戦計画、建築の起工などの日取りを決めたり、失せ物の方向を調べたりするなど、日常生活に非常に有用なのである⁸⁴⁾。これらも、占いだけが果たせる役割であるといえるだろう。

2：確証バイアスについて

占いが当たると感じられる理由について、占い業界の間でも、よく“確証バイアス”が取り上げられる。確証バイアスについて、石川（2014）は、「信念に合わせた事実が目立って認識される傾向を、認知心理学では『確証バイアス』と呼んでいます」と説明している⁸⁵⁾。また、菊池（1998）は、“確証バイアス”は自分が挙げた仮説を正事例で確証しようとする思考傾向であり、この確証バイアスには、自分の信念や仮説に合致する情報を求める傾向を持つことと、潜在的にでも反証となる証拠の収集を避ける傾向を持つことの、2つの傾向がある⁸⁶⁾と説明している。雑誌などに自分の星座の性格がいくつか書かれている場合、自分の性格に合った部分だけが強く認識され、他の部分が見えなくなるのが確証バイアスの働きである。自分の信念に沿って、事実が歪められて認識されてしまうということである。この確証バイアスにより、占いが当たっていると感じられる

という説が有力である。

ものを見たり考えたりする際の枠組みになる知識のことを、認知心理学では“スキーマ”と呼ぶ。スキーマのお陰で未経験の状況に出会った際にも、その状況を的確に理解したり、その先を予測することができたりする。スキーマは認知のさまざまな段階で特定の解釈を促し、同時に認知される内容に制約を与える。人間の知覚は、自分のスキーマに沿って外界を解釈しているため、スキーマによって認知が歪むのである⁸⁷⁾。すなわち、西洋占星術など占いの知識を習得している人は、そのスキーマに沿って外界の出来事を判断すると同時に確証バイアスがかかり、占いが当たっていると実感することが多くなると考えられる。自分のスキーマに合う確証情報だけを取り上げ、反証を無視するようになるためである。

3：偶然を嫌う人間心理

人間の知覚システムは、膨大にある不安定な感覚情報を、適切な形に推測・補完して、情報の解釈を安定したものにする働きを持っている。2つのことが同時に起きると、素早くそこに関連性を見出そうとする直感的思考は、生きていく上で欠かせない能力である。それにより学習が成立し、素早い判断により危険を避けることができるのである⁸⁸⁾。そのために、人間は“偶然”という状況を嫌う傾向がある。そのことは、菊池、石川、板橋の3者が強調して述べている。

菊池（1998）「人間の認知的保守性のあらわれの一つに、『偶然性に支配された、原因のないできごと』という考え方を嫌い、どんなできごとにも確固とした因果関係があると考えer傾向があります。言いかえると、私たちは予測不可能なランダム性や自然発生を嫌い、できごとには必ずそれなりの意味や理由があるべきだと考えer思考バイアスをもっているのです」⁸⁹⁾

石川（2014）「そもそも人間は、『原因を探す』のが好きなのです。『偶然を嫌う』と言いかえてもよいでしょう。できごとに原因があった場合にそれが特定できれば、生活に役立てられることが多いからです。原因には生きていく上での『意味』があるのです」⁹⁰⁾

板橋（2013）「人間は、実体がない抽象的なものをつかむのが苦手」⁹¹⁾

科学は“偶然”を扱えず、占いが“偶然”を扱っているということは前述したが、このように、人間はその偶然を嫌悪する傾向が強い。それは、人間が危険を避けて生きていくための本能から来る感覚なのである。

4：占いに対する科学的な見解・まとめ

西洋占星術に、実際に有意性があるのかどうかは、今の段階では定かではない。しかし占いが当たると感じるメカニズムのひとつに、占術の知識という“スキーマ”に沿って“確証バイアス”がかかり、当たるように感じられるという説は説得力があり、有力である。

また、占いの存在意義について“偶然”が大きな鍵になるということも、新しい発見であった。生年月日によって決まる星座などのカテゴリー分けも、“偶然”に含まれる。

具体的な物事の検証に基づいて結果を出す科学は、“偶然”を扱うことは出来ない。そして、その“偶然”に意味を与えられるのは、宗教や占いだけであることが分かった。特に占いは、宗教よりも具体的かつ明確に、その“偶然”に意味を与えてくれる。例えば、自分は〇〇座だということによって、自分という人間は1つのカテゴリーに分類されており、決して異質や異端なのではないと実感出来る。また、身内が事故で亡くなった際には、その身内の事故当時の星回りは最凶であったため、それを免れることが出来ずに寿命を迎えたのだと説明することが出来る。そうした“偶然”への理由づけにより、人々が安心感や納得を得ることが、占いが担っている最大の役割なのではないかと考えられるのである。

このように、科学と占いの住み分けが明確に出来ているために、どれほど科学技術が進歩しても人々は占いを求め続け、社会から占いが消滅することはないといえるのであろう。

2-2：分析研究の結果—プロ野球選手の火星と作家の水星の対比研究

1：火星と水星のアスペクトの対比

2016年の時点で日本プロ野球機構（NPB）に9年以上在籍している現役プロ野球選手と、名球会入りしている元プロ野球選手合わせて272人、そして1940年以降の生まれで単著10冊以上を持つ専業の作家454人の、火星と水星のアスペクト数の対比を行った。すると、以下のような結果になった。（数字は小数点第三位を四捨五入）

表1：[プロ野球選手と作家の火星・水星アスペクト]

	火星アスペクト 総数	火星アスペクト 1人平均数	水星アスペクト 総数	水星アスペクト 1人平均数
プロ野球選手	738	2.71	659	2.42
作家	1157	2.55	1187	2.61

プロ野球選手においては火星の平均数が上回り、作家においては水星の平均数が上回るといふ、想定通りの結果が出ている。

プロ野球選手の火星アスペクトの平均数と水星アスペクトの平均数、作家の火星アスペクトの平均数と水星アスペクトの平均数、プロ野球選手の火星アスペクトの平均数と作家の火星アスペクトの平均数、プロ野球選手の水星アスペクトの平均数と作家の水星アスペクトの平均数という4組を、それぞれ統計学の“平均差の信頼区間”による5%有意水準のt検定により検証した。その結果、プロ野球選手の火星アスペクトの平均数と水星アスペクトの平均数に関してのみ、“有意な差である”という検証結果が出た。しかし、

他は微々たる差ではあっても想定通りの比較結果であったことは、有意義であるといえる。

次に、ルル・ラブア（1991）が記述した、火星と木星、水星と海王星における合・吉座相が実際にどの程度あるのかを割り出してみる。すると、以下のような結果になった。（数字は小数点第三位を四捨五入）

表 2：[プロ野球選手と作家の火星と木星、水星と海王星の合・吉座相]

	火星と木星の 合・吉座相総数	火星と木星の 合・吉座相出現 率	水星と海王星の 合・吉座相総数	水星と海王星と の合・吉座相出 現率
プロ野球選手	73	26.84%	44	16.18%
作家	76	16.74%	105	23.13%

想定通り、プロ野球選手の火星と木星の合・吉座相と、作家の水星と海王星の合・吉座相の出現率が、もう片方と比べて高くなった。両者の率がほぼ入れ替わったかたちである。プロ野球選手においては、3.7 人に 1 人の割合での出現率である。これは、偶然の産物とはいえないのではないだろうか。

古代メソポタミアの粘土板上にて、惑星と地球上の出来事に関する記録は集められ続けたという歴史がある。西洋占星術が、単なる確証バイアスによって当たっていると感じるだけのものであれば、これだけ明確な結果は出ないように思われる。

2：太陽星座、水星星座、火星星座の割合

西洋占星術では各惑星のアスペクトよりも、各惑星の星座の方が重視される場合が

表 3：[プロ野球選手の太陽星座と火星星座]

	太陽星座	火星星座
牡羊座	16	20
牡牛座	30	11
双子座	30	22
7 蟹座	31	26
獅子座	27	32
乙女座	24	35
天秤座	26	38
蠍座	26	36
射手座	24	12
山羊座	15	15
水瓶座	10	14
魚座	13	11
	272	272
火	67	64
地	69	61
風	66	74
水	70	73

多々ある。次に、プロ野球選手 272 人と太陽星座と火星星座、作家 454 人の太陽星座と水星星座の合計結果を示し、その傾向について考察する。まず、プロ野球選手の太陽星座、火星星座の集計結果は、表 3 の通りである。

西洋占星術では一般的に、スポーツ選手は闘争的で勝負好きな火のエレメント、もしくは火星を支配星に持つ蠍座と縁が深いと伝えられている。火のエレメントの中でも、特に火星を支配星に持つ牡羊座は、

スポーツマンの印象が強い。しかし、太陽星座と火星星座を合わせて最も多かったのは水のエレメントであり、火のエレメントは3番目であった。太陽星座で最も多いのは蟹座であり、火星星座では、牡羊座の対面にあり火星の働きが悪くなるとされる、天秤座が最も多かった。牡羊座の数値は太陽星座・火星星座ともに低く、優勢さは見られなかった。

表4：[作家の太陽星座と水星星座]

	太陽星座	水星星座
牡羊座	38	28
牡牛座	37	35
双子座	31	30
蟹座	31	30
獅子座	38	39
乙女座	30	21
天秤座	36	41
蠍座	47	52
射手座	29	36
山羊座	44	45
水瓶座	47	48
魚座	46	49
	454	454
火	105	103
地	111	101
風	114	119
水	124	131

次に、作家の太陽星座と水星星座の集計結果を示すと、表4の通りである。

文章を執筆する作家は代表的な知的な職業であり、西洋占星術では一般的に、風のエレメントもしくは知性を示す水星が支配星である乙女座が、強い関連を持つと伝えられている。風のエレメントの中でも水星を支配星とする双子座は、特に文筆の才能を持つという印象が強い。しかし、太陽星座と水星星座を合わせて最も多かったのは水のエレメントであり、風のエレメントは次点

であった。水星を支配星とする双子座と乙女座は、太陽星座も水星星座も合わせ、共に極めて低い数値であった。太陽星座で最も多いのは蠍座と水瓶座であり、水瓶座は風のエレメントに属しているため、星座単体でみると、西洋占星術の伝統的な判断に適応しているともいえる。

水星星座で最も多いのは、蠍座であった。蠍座は集中力があり粘り強く、好きな分野に没頭しやすい性質を持つとされる。しかし、伝統的な西洋占星術において、作家に適性があると考えられてはいない。

このように12星座の検証においては、アスペクトの検証に反して、西洋占星術が伝統的に伝えてきた占断内容を見出すことが出来なかった。

3：分析研究・まとめ

ミッシェル・ゴークランが提唱した“火星効果”が注目されたように、10惑星の中でも特に火星は、こうした分析研究において、何かしらの有意な結果を得やすいとされてきた。実際に作家のホロスコープ上の水星のアスペクト数より、プロ野球選手のホロスコ

ープ上のアスペクト数の平均値が高いなど、この分析研究においても火星は際立つ表れ方をした。プロ野球選手と作家を比べて、火星と水星のアスペクト数に明確な差が出たことから、ホロスコープ上の各惑星が形成するアスペクトが持つ性質には、有意性がある可能性がある、ということが出来る。古代メソポタミアの時代から長く積み上げられてきた前兆文の記録が、わずかながらでも反映されている可能性を感じさせる。

しかし、西洋占星術で主に使用されている各星座の性質に関しては、伝えられていることが強く否定される結果となり、この分析研究においては有意性があることを証明することが出来なかった。特に“スポーツマンは火のエレメントに適性がある”、“双子座や乙女座は執筆作業に適している”というような職業面の適性について、今回の研究では否定されたことになる。黄道 12 星座はその発祥が不明であり、観測記録の蓄積もないことから、その存在自体が架空のものであると考えることも出来る。

2-3：質問紙調査の結果

1：質問紙調査の集計結果

主に Facebook と Twitter、筆者が運営する仕事用のブログ上¹⁸⁾にて協力を呼びかけた結果、老若男女を合わせて全部で 343 人からの有効回答を得られた。しかし、筆者が持つ Twitter とブログの性質から、その中には西洋占星術の知識を持つ人が多く含まれると予想される。Q6 の回答結果により、占星術の知識があるグループ、まずまず知識があるグループ、ほとんど知識がないグループの 3 つに分類した。自分自身のホロスコープ上における月星座、金星星座、火星星座を知っている人、すなわち Q6 で A、B、C をすべてチェックした人の回答を、占星術の知識のあるグループとして“ABC データ”と名付け、3 つの星のすべての星座を知らない人、すなわち Q6 で D をチェックした人の回答を、占星術の知識のないグループとして“D データ”と名付け、3 つの中で 1 つもしくは 2 つの星座を知っている人の回答を、“その他データ”と名付けた。343 人の回答の内訳は、ABC データが 97、D データが 181、その他データが 65 であった。その他データは、3 つの星の星座の中で知らないと回答した星に関する回答だけを、有効回答として解析に取り入れることにした。

[Q1・2]

Q1 と Q2 の質問は、以下であった。

Q1. 外で人と会っている時のご自分は、どちらに近いと思いますか。1 つお選びください。

A:行動的もしくはよく話す B:控えめもしくは静か

Q2. 自宅で（家族と）過ごしている時のご自分は、どちらに近いと思いますか。1 つお選びください。

A:行動的もしくはよく話す B:控えめもしくは静か

西洋占星術の世界では、太陽星座は社会的な活動において働くといわれている。そのため、Q1 では太陽星座がプラス星座であれば A を選択し、マイナス星座であれば B を選択することが期待される。また、月星座は自宅などで 1 人で過ごしている時や、家族と過ごしている時に働くといわれている。そのため、Q2 では月星座がプラス星座であれば A を選択し、マイナス星座であれば B を選択することが期待される。

ABC データを“太陽星座を知っている人”、“月星座を知っている人”とし、D データを“西洋占星術に詳しくない人”とし、“月星座を知らない人”は、D データにその他データの中の月星座を知らない人 18 人を加えたものとした。月は動きが早く、1 日の中で 2 星座をまたぐことが多々あり、出生時間が不明の場合は月の星座を導き出せないことがある。そのため月のデータに関しては、16 人の回答が無効となった。同じく太陽星座の不明による無効数は、3 件であった。表に“西洋占星術に詳しくない人”と記述したのは、昨今では大抵の人が自分の太陽星座を知っていると思われるためである。Q1 と Q2 の結果は、表 5 のようになった（数字は小数点第三位を四捨五入）。

表 5：[Q1・Q2 の回答の分析結果]

太陽星座を知っている人	Q1・2 A(プラス)	率	Q1・2 B(マイナス)	率
太陽星座がプラス	33	67.35	16	32.65
太陽星座がマイナス	30	62.50	18	37.50
月星座を知っている人				
月星座がプラス	34	61.82	21	38.18
月星座がマイナス	21	51.22	20	48.78
西洋占星術に詳しくない人				
太陽星座がプラス	46	54.76	38	45.24
太陽星座がマイナス	47	51.65	44	48.35
月星座を知らない人				
月星座がプラス	50	50.00	50	50.00
月星座がマイナス	47	55.29	38	44.71

緑色で塗っている数字は、星座がプラスもしくはマイナスと比べて期待する結果を得た数字であり、赤色は期待する結果を得なかった数字である。しかし、自分の星座がプラスかマイナスかに関わらず、太陽においても月においても、能動的とする A を選んだ人が多かった。自分の太陽と月の星座を知っている人は、星座がプラスとマイナスの結果を比べると、微量ではあるものの、4 つの項目においてすべて該当する方が多い結果となった。しかし、自分の月星座を知らない人は、月星座がマイナスの人の方が A を多く選択しているという、逆の結果となった。

太陽星座はほぼすべての人が知っている想定されるため、最も重要なのは、“自分の月星座を知らない人”の方の、月星座に関する回答結果である。それが唯一期待に反する結果となった。そのため、特に月星座におけるプラス星座とマイナス星座の性質の有意性については、ここでは証明することが出来なかった。

[Q3]

Q3の質問は、以下であった。

Q3.あまり人には見せない「本当の自分」は、次の中のどれが最も近いと思いますか。

1つお選びください。(幼少の頃の性格をご参考になしてください)

A:真面目、労働好き、頑固でマイペース、金銭・物を重視する、食にこだわる。

B:理論的思考、話し好き、勉強好き、好奇心旺盛で深刻さが苦手、なるべく人と接していたい。

C:情が深い、涙もろい、感情の浮き沈みが激しい、過去を重く考える、ひとつの物事に執着する。

D:気持ちの切り替えが早い、勝負好き、怒りっぽい、ジッとしていない、未来を見る。

Q3では、月星座のエレメントの性質と実際に本人が感じている内面の性質が、一致しているかどうかを判断する。西洋占星術では、月は内面に潜む感情や個人が隠し持つ本質を司り、それと同時に幼少の頃の性質も表すとされている。4つの回答が示すエレメントは、Aが地、Bが風、Cが水、Dが火の性質である。出生時間が不明のため月星座が導き出せないことによる無効数は、16件である。その集計結果は、表6の通りである。

表6：[Q3の回答の分析結果]

月星座を知っている人	Q3・A(地)	率(%)	Q3・B(風)	率(%)	Q3・C(水)	率(%)	Q3・D(火)	率(%)
月エレメントが火	3	12.00	1	4.00	11	44.00	10	40.00
月エレメントが地	6	24.00	3	12.00	15	60.00	1	4.00
月エレメントが風	4	13.79	8	27.59	9	31.03	8	27.59
月エレメントが水	1	5.88	1	5.88	13	76.47	2	11.76
月星座を知らない人								
月エレメントが火	14	27.45	6	11.76	22	43.14	9	17.65
月エレメントが地	6	13.04	8	17.39	22	47.83	10	21.74
月エレメントが風	3	6.25	8	16.67	29	60.42	8	16.67
月エレメントが水	9	23.68	6	15.79	18	47.37	5	13.16

月のエレメントが火、地、風、水のすべての人において、最も高い選択率を得たのは、水の性質を示すCであった。その中でも4つのエレメント内で比較をしてみたのが、表の緑色の数字と、赤色の数字で示した結果である。緑色は期待する結果を得られた数字であるが、“月星座を知っている人”のデータはすべて、該当する箇所が4エレメント内のトップを占めているという、顕著な結果となった。

ここでもやはり重要なのは、“月星座を知らない人”の方の回答結果である。明確に結果

が出ている ABC データに比べて、A、B、C、D のどの項目においても該当する箇所はすべてトップを取らなかった。月星座のプラスかマイナスかに引き続き、4 種のエレメント別においても、月星座の有意性を見出すことが出来なかった。

“月星座を知っている人”の回答が理想的であったのは、西洋占星術における自分自身の月が持つ性質をあらかじめ知っているがために、意図的であれ無意識的であれ、それに沿った回答を選んだ人が多かったのではないかと推測される。

[Q4]

Q4 の質問は、以下であった。

Q4. 女性は自分になりたいと思う憧れの女性像に最も近いものを、男性は最も惹かれる女性像を、次の中から 1 つお選びください。

- A: 情が深くて優しく繊細、家庭的で家族思い、弱い者に優しく献身的。
- B: 真面目で約束を誠実に守る、管理能力が高く頼れる、仕事熱心で稼ぎが多い。
- C: 夢に向かって前進する情熱家、強気でハッキリしている、ユーモアがある。
- D: 知性があり豊かな知識を持つ、社交上手で友人知人が多い、颯爽としたムード。

西洋占星術では金星星座は、女性にとっては“このような自分になりたい”という理想の女性像を示し、男性にとっては魅力を感じる女性像を示すといわれている。それ以外にも恋愛パターンや金銭感覚を示すとされているが、最も明確に文章化できると考えられる、“理想の女性像”を選ぶかたちに設定した。ABC データを“金星星座を知っている人”とし、D データにその他データ内の金星星座を知らない人 42 人を追加し、“金星星座を知らない人”と設定した。その集計結果は、以下の表の通りである。

表 7: [Q4 の回答の分析結果]

金星星座を知っている人	Q4・A(水)	率(%)	Q4・B(地)	率(%)	Q4・C(火)	率(%)	Q4・D(風)	率(%)
金星エレメントが火	3	12.50	4	16.67	8	33.33	9	37.50
金星エレメントが地	4	14.81	2	7.41	6	22.22	15	55.56
金星エレメントが風	3	15.00	4	20.00	2	10.00	11	55.00
金星エレメントが水	3	11.54	1	3.85	10	38.46	12	46.15
金星星座を知らない人								
金星エレメントが火	14	25.93	5	9.26	9	16.67	26	48.15
金星エレメントが地	16	32.65	5	10.20	5	10.20	23	46.94
金星エレメントが風	25	38.46	3	4.62	9	13.85	28	43.08
金星エレメントが水	19	33.93	6	10.71	11	19.64	20	35.71

自分の金星星座を知っている人も知らない人も、最も多く選んだのは、D の風の性質であった。また、“金星星座を知っている人”は次いで C の火の性質を選ぶ傾向が強く、“金

星星座を知らない人”は、次いで A の水の性質を選ぶ人が多かった。しかし、すべての項目において、該当する箇所が 4 つのエレメントの中でトップを取るものはなかった。月星座と同様に、金星星座においても各エレメントの性質における有意性を証明することは出来なかった。

金星星座に関しては、男女別に分けると興味深い傾向が見られた。西洋占星術ではプラス星座は火と風のエレメントが対応し、マイナス星座は地と水のエレメントが対応している。男女別に分けて、火と風のプラスの要素を選ぶ割合と、地と水のマイナスの要素を選ぶ割合を調べてみると、以下のようになった。

男性 プラスの要素を選んだ人…32.94% マイナスの要素を選んだ人…67.06%
女性 プラスの要素を選んだ人…74.89% マイナスの要素を選んだ人…25.11%

男性の方では、理想と感じる女性に“情が深く献身的で控えめで、誠実な人”という内向的な性質を求める人が多く、逆に女性の方では理想の女性像として、“夢や情熱を追い、社交的で知的な人”という、外交的な性質を求める人が、圧倒的に多いことが分かった。この結果は、金星星座のエレメントとはほぼ無関係である。男性は、現代においても女性に脇から支えるような控えめさや優しさ、献身性を求めていることがうかがえる。しかし、女性の方は日陰の存在であることよりも、情熱を燃やして夢を追い、多くの人たちと関わり合っていくような、社会で活躍する女性像に憧れを感じていることが分かった。

この結果は男女別の心理や社会情勢を反映するものであり、西洋占星術とは無関係のものであるといえる。

[Q5]

Q5 の質問は、以下であった。

Q5.男性は自分になりたいと思う憧れの男性像に最も近いものを、女性は最も惹かれる男性像を、次の中から 1 つお選びください。

- A:情が深くて優しく繊細、家庭的で家族思い、弱い者に優しく献身的。
- B:真面目で約束を誠実に守る、管理能力が高く頼れる、仕事熱心で稼ぎが多い。
- C:夢に向かって前進する情熱家、強気でハッキリしている、ユーモアがある。
- D:知性があり豊かな知識を持つ、社交上手で友人知人が多い、颯爽としたムード。

西洋占星術では火星星座は、女性が惹かれる男性像、もしくは男性が憧れる自分像を示すといわれている。それ以外にも、火星は行動パターンや運動能力などを示すといわれているが、ここでは最も明確に文章化できると考えられる、“理想の男性像”を選ぶかた

ちに設定した。ABC データを“火星星座を知っている人”とし、D データにその他データ内の火星星座を知らない人 54 人を追加し、“火星星座を知らない人”と設定した。出生時間の不明により、星座が不明である無効数が 1 件あった。その集計結果は、以下の表の通りである。

表 8：[Q5 の回答の分析結果]

火星星座を知っている人	Q4・A(水)	率(%)	Q4・B(地)	率(%)	Q4・C(火)	率(%)	Q4・D(風)	率(%)
火星エレメントが火	5	15.63	11	34.38	8	25.00	8	25
火星エレメントが地	4	23.53	3	17.65	7	41.18	3	17.65
火星エレメントが風	0	0.00	4	16.00	8	32.00	13	52.00
火星エレメントが水	3	13.64	5	22.73	8	36.36	6	27.27
火星星座を知らない人								
火星エレメントが火	8	13.79	19	32.76	11	18.97	20	34.48
火星エレメントが地	11	16.42	21	31.34	19	28.36	16	23.88
火星エレメントが風	9	13.24	24	35.29	17	25.00	18	26.47
火星エレメントが水	7	16.67	12	28.57	10	23.81	13	30.95

“火星星座を知っている人”の火星星座のエレメントが風の人が、風の性質を選んだ率は 52.00%と顕著であった。また、“火星星座を知らない人”の火星星座のエレメントが水の人が水の性質を選んだ率が、辛うじて 4 つのエレメントの中のトップに立った。しかし、それ以外はすべてトップではなく、火星星座のエレメントの性質においても、有意性を証明することは出来ていないといえる。

ちなみに、金星星座と同様に、火と風のプラスのエレメントと、地と水のマイナスのエレメントに分けて、男女別の割合を出してみると、以下の結果であった。

男性 プラスの要素を選んだ人…62.65% マイナスの要素を選んだ人…37.35%

女性 プラスの要素を選んだ人…53.41% マイナスの要素を選んだ人…46.59%

金星星座ほど極端な差は出なかったが、ある程度、男性が能動的で活動的な自分像に憧れる傾向が見受けられた。女性の選択率はプラスの要素もマイナスの要素も拮抗しており、女性が掲げる理想の男性像の多様性がうかがえる。しかしそれは金星星座と同様に、火星星座のエレメントとは無関係となっている。

2：質問紙調査・まとめ

筆者はさまざまな人たちの鑑定や、周囲の人たちへの観察を通して、月星座、金星星座、火星星座が持つ性質には何かしらの理由により、有意性があるという確信を持ち続けていた。そのためこの質問紙調査に、有意性を示す明確な結果が出ることを期待して挑んだのである。しかし、重要である自分の各星座を知らない人の方のデータ上にて、まったくといっていいほど有意性を見出すことが出来なかった。これは、西洋占星術師

が捉えているほど、個人が持つホロスコープ上の星座が持つ性質が、個人が捉える性質や価値観と一致していないことを示している。特に金星と火星が示す嗜好については、星座の影響より、性差や社会像が反映されていると思われる。

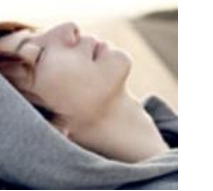
星座の性質に関する有意性がまったく見出せなかったことから、ここでも、古代メソポタミアの時代から、黄道 12 星座に関する記録の蓄積がなかったことを想起させる。ただし、サンプル数がそれほど多くはない点、今回扱ったのが星座単体ではなく各エレメントの性質であったことなどを考慮すると、質問内容や調査方法の変更により有意性が引き出される可能性があることも、心に留めておきたい。

2-4：インタビュー調査の結果

1：対象者

インタビューにご協力いただいた西洋占星術のスペシャリスト 7 人のプロフィールは、以下の通りである。(敬称略・順不同)

表 9：[インタビュー対象者プロフィール一覧]

 【写真 2:マーク・矢崎治信】	マーク・矢崎治信 易断家として著名な高島嘉右衛門の玄孫^{やしまた}。20歳で占い雑誌『My Birthday』（実業之日本社）で連載を開始し、長く第一線で活躍し続ける星座占い界の大御所である。おまじないブームの仕掛け人でもあり、世間を風靡した13星座占いの創始者でもある。『毎日新聞』に連載中。著書は30冊以上。
 【写真 3. 田中誠子】	田中誠子 90年代から2002年まで占い雑誌『My Birthday』チーフを務め、その後『My Birthday デラックス』『説話社ハッピーウェブ』『通信販売サイトハピタマ!』など、各種コンテンツ制作に携わる。現在は都内早稲田「説話社フォーチュンルーム 116 ちえの樹」にて、占いイベント企画運営に携わる。
 【写真 4:森信彰雄】	森信彰雄 東京都内渋谷区の占い学校「アカデメイア・カレッジ」学校長及び、有限会社アカデメイア代表取締役。数多くの鑑定経験を重ねたのち、同校を立ち上げ学校長を務め、多くのプロの占い師を輩出する。講義指導歴は20年以上。
 【写真 5:千田歌秋】	千田歌秋 東京都内麻布十番の占いカフェ&バー燦伍（さんご）のオーナー兼占い師。店内で日々多くの対面鑑定を行うことを中心に、占い師の育成や占いイベントの企画、監修なども同時に行う。
 【写真 6:桜倉ケン】	桜倉ケン 占い師兼タレントで、若手イケメン占い師の代表的存在。NTV「ラジかる!!」、MXテレビ「U・LA・LA」などテレビ番組のレギュラー出演を務めた他、女子小学生のファッション誌『ニコ★プチ』などで連載中。定期的に占い館での鑑定も行う。
 【写真 7:羽妙】	羽妙 北海道の代表的な占い師。札幌と都内にて、定期的に鑑定を行う。読売新聞北海道支社広告部企画『ヨミキタ』、『月刊クオリティー』新春特別号、『北海道新聞』など主に北海道内の多くの媒体で、執筆も行っている。



[写真 8: 錢天牛]

錢天牛

プロの占術師となり 20 年。著名な西洋占星術家だった亡き父を襲名し、錢天牛 Jr から錢天牛と改名した。現在アニメ雑誌『New Type』に連載中の他、『週刊 TV ガイド』、『婦人公論』など多数の連載経験を持つ。鑑定実績も豊富である。

2：インタビューの概要

“研究方法・実施”の中の“インタビュー調査”の項目に記載した 6 つの質問への回答の、概要を記載する。(敬称略・順不同)

1. 本格的な西洋占星術（ホロスコープ）における以下の項目について、感覚で何%程度の的中率があると思いますか。

① 個人の性格や性質 ② 個人の未来の運勢 ③ 社会的な未来の運勢（春分図等）
それぞれ挙げていただいたパーセンテージをまとめると、下記の表の通りとなる。

表 10：[インタビュー回答:本格的な西洋占星術における的中率]

	マーク	田中	森信	千田	桜倉	羽妙	錢天牛
①	100	70～80	90	55～70	30～70	99	90
②	100	50	90	55～70	10～30	80	70
③	80	30	不明		10～20	70	70

上記のパーセンテージに対する目立った理由を、以下に抜粋する。

マーク・矢崎治信

プロとしてお金をもらう訳だから、100%と思って書いたり話したりしている。星占いの予測は断定的ではなく、ニュアンスとして出てくる。それを自分のボキャブラリーで話していくので、話をしながら星の暗示と相手の悩みをすり合わせることで、最終的に 100%に近づけていく。言葉で具体的に断定すると、当たるものと当たらないものが出てきてしまうが、ニュアンスでいうと 100%当たっていると思っている。

田中誠子

占いで性格を示されると、ここのことかなと自分で探り、自分で当てていく。しかし自己肯定感の強い人は、認めたくないことを示されると拒否する傾向もある。そのため占いが好きな人は、性格や性質については 70～80%当たると感じるのでは。社会的な未来の運勢は自分では当てに行くことが出来ないため、30%と低い率になる。

森信彰雄

個人については、9割くらいは当たっている。難しいのは、言葉の選び方によつて的中率が変わる点である。自分の認めたくない言葉が混じっていると、強く拒絶されることがある。ほぼ同じことを言っているのに、言い換えるとあっさりと認める。なかには、表現を変えてもどうしてもずれる人も1割程度はいる。社会的な未来の運勢については、必ず後出しじゃんけんになる。大震災などが起こった後に新月図などを調べてみると、傷としてちゃんと出ている。しかし、実際にそれを明確な予言として伝えるのは非常に難しいし、世の中の役に立たない。そのため、的中率のパーセンテージは出せない。

千田歌秋

相手をまったく知らずにホロスコープだけで読んだ性質と運勢は、未来の運勢も含めて55%~60%という気がする。しかし、対話をしながら見ると、60~70%くらいに上がる。会話で確認して当てるというより、クライアントの雰囲気によってホロスコープの見え方が変わり、明確になってくるという印象が強い。また、同じホロスコープを20歳と40歳の時に読むと、その期間の環境や経験で、出方が違ってくるのではないかな。

桜倉ケン

相談者の性格を観察して自分で感じる的中率と、相談者の捉え方が違っている。自分から見てかなり当たっていると感じて、「きつい性格ですね」などとそのまま伝えた場合、相手の方が自覚がないため否定されることがある。そのため30%の人が一番多いと感じる。しかし自分のホロスコープを見ると、70%は当たっていると感じられる。そのため、30~70%とした。

2. 12星座占いにおける「個人の性格や性質」について、何%程度の的中率があると思いますか。

① 個人の性格や資質 ② 雑誌などの未来予測

それぞれ挙げていただいたパーセンテージをまとめると、下記の表の通りとなる。

表 11 : [インタビュー回答:12 星座占いにおける的中率]

	マーク	田中	森信	千田	桜倉	羽妙	錢天牛
①	100	70~80	70~80	50	10	70	70
②	100	50	50	30~40	70	60	70

上記のパーセンテージに対する目立った理由を、以下に抜粋する。

千田歌秋

太陽星座で出す性格や性質は、ざっくりした感じであるがためにふんわりしていて、半分程度は当たっている感じがする。未来予測だと、より内容を絞り込む必要があるので、当たっている感覚は減る。

桜倉ケン

月や金星などの他の惑星を見ないと詳細な個人の性格や性質は分からないため、太陽 12 星座だけで的中率は 10% にした。現在、最も重視しているのは月星座であり、太陽星座は 2 番目。昔は太陽が持つ性格が表に出やすかったが、電話連絡がメールに変わるなどインターネット社会になった現代において、本来は内面を示していた月の性格の方が表に出やすくなった。そのため月の方が重要であり、太陽星座よりも月星座同士の相性の方が重要だと考える。雑誌などの未来予測に関しては、12 星座占いは文字数の制限もあるので、出来るだけ広く意味を取るようにして、ライトなことを書くようにしている。そのため、ホロスコープよりも当たりやすいと思う。

羽妙

東洋の占術の的中率は 80% で、それよりも 12 星座占いの未来予測に関する的中率は下がる。それは掲載媒体から、的中率以上に読者の元気づけを求めてくるためである。

3. 何故今、12 星座占いが流行っているのだと思いますか。思いつくままにお答えください。

マーク・矢崎治信

多くの占術の中で星占いが流行っているのは、マスコミに取り上げられ、社会の流れに上手く乗っているから。星占いでは星が運行しているため、常に変化し続け、次は何が載っているのかと雑誌の読者を期待させることができる。それが雑誌の購入やテレビの視聴率上昇につながり、マスコミがさらに取り上げるようになり、その相乗効果として読者に強い影響を与え、ブームになったと聞いている。星占いは流れによって細かく切り口を変えていくことができるため、マスコミに載せるのには便利である。それが、現在流行っている理由であると考えている。

田中誠子

私が扱ってきた雑誌『My Birthday』が女の子向けだったというのもあり、12 星座をメインに扱ってきたのは、星座にロマンがあるからだと考えている。四柱推命だと漢字

だらけだったり、易だと棒が並ぶだけだったり、絵柄で表すものが少ない。12 支占
いも流行らないが、それは西洋占星術の方が絵柄が可愛く、女の子が受け入れやすか
ったからではないかと思う。こうした感性的な視点は、カルチャーとして大事である。

『My Birthday』創刊は 1979 年だが、70 年代は雑誌が次々と出てきた時代であり、そ
れと同時に日本の星占いのブームが始まっている。それは女性向けの雑誌の掲載が発
端であり、そのために女性の感性に合う 12 星座占いが主流になっていったのではない
かと思う。

千田歌秋

12 星座占いは、12 個くらいあるのがちょうどよく、単純だから楽しめる。少なすぎ
ても多すぎても、大衆にはあまり受け入れられないのでは。

桜倉ケン

東洋の占術だと吉凶がハッキリしている。それに比べると西洋占星術は柔軟性があ
り、言い方を変えるなど応用が利き、媒体に応じて上手く使い分けることができる。

羽妙

東洋の占術は個人を中心にみるものであり、それに反して西洋占星術は不特定多数
に向けて原稿で書きやすい性質がある。また、東洋の占術はロジック数が多く、自分
の星を導き出すにも多くの表の掲載が必要になる。12 星座の方が、ロジック数が少な
く簡単に自分の星座を出せるため、媒体からのニーズも高い。

4. 西洋占星術は本当に当たる、もしくは全く当たっていないと思った経験がありました
ら、教えてください。

マーク・矢崎治信

中学生の時に好きな牡羊座の女の子をデートに誘おうと、牡羊座の小雑誌の記事を
見て、気持ちが伝わりそうな日を選んで誘ってみた。しかし“他に好きな人がいる”と
言われて振られる結果となり、良い運気を選んだのに何故？と思い、悲しい気分が家
に帰った。ふと自分の星座である牡牛座の方の運勢をみると、“牡羊座の彼女がいる人
は、相手に他に好きな人ができて別れることになる”と書かれていて、ズバリ言い当
てられていてショックを受けた。これは何かそれだけの法則があるのだと思い、それ
が西洋占星術の世界に入ったキッカケにもなった。

田中誠子

私は双子座だが、自動車免許の更新時に集まるのは、期間的に牡牛座と双子座ばか

りになる。その人たちを観察すると、写真撮影のために着飾っている人とシンプルな服装の2派に分かれていることに気づく。牡牛座はお洒落な星座であるといわれ、双子座はゴテゴテ飾ることを好まない爽やかな性質を持つ。ちらっと書類を見ると、やはり着飾っている人は牡牛座であり、シンプルな服装の人は双子座であったため、星座の影響はあるのだと実感した。

森信彰雄

相談者に、天空の火星が5ハウスに入った時に出会いがあると伝え、後日的中したとお礼を言われた。鑑定の記録は全部取っているので照合すると、そういうものがたくさんある。また、さまざまな占断を伝えてもまったく当たらないケースがあったが、相談者が後日になって調べたら、自分の生年月日が間違っていたことが分かったことがあった。

千田歌秋

相談者からよく当たっていると言われるが、その場合は“運氣”と“意識”と“行動”の3つがぴったり重なっている。実際に良い運氣だから早く動いてくださいと伝え、相談者がその通りに動くと、望み通りの良い結果になり、“当たっていました”になる。アクションを起こしていなかったり、起こさなかったりすると、当たらなかったという結果になる。

桜倉ケン

他の占術師に小惑星で見てもらった時に、“小惑星東京”がホロスコープの重要な場所に入ったタイミングで、ちょうど東京に出てきたことが分かり、面白いと思った。当たらないと思ったのは、出生時間が10分程度の差の双子を鑑定したら、お互いにまったく性格が違っていたことがある。また、ホロスコープではアイドルに適性があると出ていても、実際に会うと外見はアイドルとは違っていたことも。何でもホロスコープで出る訳ではないと思う。

錢天牛

父親は、女性誌で阪神淡路大震災が起こる日を的中させて、世間から注目された。そして父親自身で死期を予言し、その通りの時期に予言した病で他界した。そして自分自身が病気をしたのも再婚したのも、自分が予知した通りになっている。2010年12月の星回りの悪い時期に脳幹出血に陥ったが、まだ死ぬ時ではないと分かっていた。また、幸運の星・木星が自分の星座である山羊座に入った2008年に再婚した。

5. 科学的根拠のない西洋占星術（ホロスコープ）に、有意性があると思いますか。そ

れとも、単にそう感じられるだけのものだと思いますか。その理由もお答えください。

マーク・矢崎治信

有意性は存在する。その理由は、西洋占星術の起源にあると思っている。まず各星座があってその期間に生まれたからその性格となるのではなく、まずは性格分析があり、それを忘れないために星座を作り、それを天に上げたという、一般的な認識とは逆の発想を持っている。この期間の生まれの人はこうだという性格分析があり、本がなかった当時はそれを語り継いでいくために、空の星の位置を教えてそこで星座を作り、神話というストーリーを作ったのではないか。そして星空を教科書代わりに使っていたのだろうと考えている。昔は星の運行をカレンダー代わりにして、あの星がここに来たら種を蒔く時期とか、隣の国が攻めて来るとか、洪水が来るからその前に収穫するとかという目印となり、当時の神官などが国を治めるために、そうした記録を残していった。その記録を積み上げ、それが星占いに発展した。そうして何百年も記録を積み重ねると、今度はそれがある程度当たって来る。僕が先生に教わったのは、そういう歴史だった。そうすると、根拠は絶対にあるのだと思う。

田中誠子

有意性は存在する。星座の性質が先に決まっていたのではなく、この頃生まれた人は血の気の多いなど、先に性格分析があり、その後から星座が当てはまったと考えられる。星座に限らず、この年に生まれた人はこうした性格であるとか、幅広い年月における人たちの性質が、長い歴史の中でつかまれてきたのではないか。しかし、本来は生まれた人間に宇宙から性格が落とし込まれたが、それを人間が観測してまとめ上げ、それを星占いという形として空に返したのが、西洋占星術であると考えている。また、最近重力波の観測に成功したというニュースを聞いた。弱すぎて見えないが、個体にはすべて引力があり、人間も含め物質にはすべて重力波があるという。巨大である惑星からは当然たくさん出ていて、それが多少人間の気持ちを左右し、性格や運勢にも影響を与えている可能性もあるのではないか。今の科学では分からないが、将来分かる時が来るかもしれない。

森信彰雄

有意性があると言いたいけれど、正直なところ確証バイアスの影響も多分にあると思う。しかし単にそう感じられるだけのものではなく、科学では解明出来ないシステムがあり、それに則った形で表れていると思う。無関係なところで同時に起こった出来事に関連性があるという、シンクロニシティ理論というものがある。その人の心の表れが天体の位置とシンクロしているというのは、非常に納得感を持てる。ユング心理学でいうシンクロニシティ的な考え方は現実にフィットしていて、その説を信じて

占いを行っている。科学的ではないがそれが根拠であり、そのために有意性があると考ええる。

千田歌秋

有意性の有無については、イエスかノーならイエスだといえる。天体が起こすドラマが地上に反映されるというマクロコスモスとミクロコスモスの照応という説があり、昔からそれが途絶えることなく続いているし、実際に影響していると考えている。影響されていると感じる人が多く、大きな関心事であり続けていることは、まだ見出せていない、何かしらの根拠があるはず。天体の影響が物質、人間に影響するという単純なものではなく、実証科学では見出せない隠れた秩序があるのでは。確認できていない粒子や波動とか、脳のことも完全に解明されていないので、何かしらの働きかけによって脳に干渉が行われるとか。しかし人間の心を知ろうとしても、感情や思考は主観的であり、相互作用も含めた全体的なことを客観的な視点で証明することは不可能だと思う。

桜倉ケン

有意性はあると思う。まったく知らない人、例えば相談者の好きな異性のことでも、相手の性格を読むとかなり特徴が当たっているため、本当にあると思う。時々県警が、事故を起こしやすい人や宝くじが当たりやすい人の星座の集計を行っているが、科学的根拠はなくても星座が持つ特徴に、そうした要因はあると感じる。

羽妙

有意性があり、理論通りの働きを持っていると考えている。自分自身のホロスコープを見て自分の過去を振り返ると、星通りの運気に人生が流れているのが分かる。それは気のせいというレベルではなく、ほぼパーフェクトに理論通りになっていると感じられる。

銭天牛

有意性はあると思うから、使っているという理由につながる。本当に根拠がないのであれば、5千年も続かないのでは。どちらが先かは忘れたが、暦を作る際に天体観測が行われたはず。そうした暦を作る上で、あの星があそこにある時はこんなことが起こったという、ジンクスのようなものを蓄積していったのだと思う。精密ではないのだろうけれど、しかしそれは過去の人たちが見つけ出したものの集大成だと思う。積み重ねて構築され、それが少しずつ変更されていったものだろう。そのため、有意性があるといえる。

6. 西洋占星術（12 星座も含め）は何故、現代になっても廃れずに残り続けていると思いますか。思いつくままにお答えください。

マーク・矢崎治信

科学では割り切れない不安を多くの人が抱えていて、その不安に対して何か道筋をつけたいと思うのでは。朝のテレビの占いでも、今日が見えないから方向性が知りたい、例え 12 分の 1 の割り振りでも自分の評価や方向性をつけてもらうことは指針となり、安心感が持てる。道筋があれば頼るようになるので、それが廃れない一番の理由になると思う。不安のない世の中になったら占いは不要になるだろう。もう一つは、メディアが占いを提供することで、読者が次はどうなるのかと期待して注目するというメディア的戦略も、影響が強い。掲載されていなければ見る事が出来ないが、あちこちで提供されていて身近に存在するので、不安のよりどころとしてそれを使う…という相乗効果も、占いが廃れない理由なのではないかと思う。

田中誠子

星占い自体がロマンであり、現実を生きていく上での、夢や希望を与えてくれる。人は希望を持たなければ生存率が低くなるという説があるが、今が大変であっても、占いを通して何かいいことがあるのではないかという希望を持てる。もし相性が悪い人を好きだと思っていても、今後は上手くやっていける、こうするといいなどと言われれば、頑張れる。そうした希望をもたらすものが星占いであり、そのために求め続けられているのではないかと思う。

森信彰雄

占いの機能のひとつに、世の中に笑いや楽しみを提供するというライトなエンターテインメント性というものがある。初詣でおみくじを引くのと同じで、大吉が出たら嬉しくなり、良いゲン担ぎになる。いつの時代も人間はそういうことが好きだから、廃れずにずっと残っているのだと思う。12 星座占いが浸透していて誰もが自分の星座を知っているから、会話をするときの良いツールになるという、人間関係の潤滑油的な存在にもなる。大半の人はそんなふうに軽く占いに接している。それと同時に、私たちは物質やかたちだけの世界ではなく、意味や理由を求める“意味世界”の中に生きている。その意味世界を提供出来るということが、現代になっても西洋占星術が廃れずに残り続けている理由だろうと思う。

千田歌秋

現代社会を生きるためには、個人が個人として確立されている必要があり、アイデンティティを求めている人が多い。昔のような共同体の中の一人だというふんわりと

したアイデンティティであれば、明日は晴れるか、獲物が取れるかななどの話題を共有し、皆で考えればいい。しかし個人として責任を持ってアイデンティティを確立しなければいけないとなると、不確定要素が非常に増え、不安になる。私ってこういう人なんだという拠り所が、今非常に必要とされている感じがする。占いは、それを手伝ってくれる要素なのではという気がする。

羽妙

未来を案じるのは人間だけで、人間がいる限り未来を知りたい気持ちがあるため、占いはなくなる。また、雑誌などのメディアでは息抜きコーナーが必要で、その枠を埋めるために 12 星座占いが流行っているのではないかな。そして、占いは高い有用性があり、生きていく上の戦略の 1 つとなる。運気が悪い時に頑張るよりも、ベストな時期に動いた方が結果が良くなる。それを元に、行動のスケジュールが組めるという利便性がある。

銭天牛

夢や憧れを感じられるからではないか。また、何事も星のせいになり、むやみやたらと人のせいにしなくなるので、むしろ健全になる。今、星がこうだから上手いかわないのだとか、悪いことがあったのはその星のせいだという理由が見つかり、それが心の拠り所になる。情緒安定させるためには、非常に良い道具だと思う。それが昔から続いているから、廃れないのではないかな。

3：インタビュー調査・まとめ

本格的な西洋占星術の的中率については、大半が 50%以上を挙げる高い水準となった。唯一 50%を切った桜倉先生が挙げた理由は「相談者の性格を観察して自分で感じる的中率と、相談者の捉え方が違っている」であった。それ以外の質問回答の箇所においても、相談者が主観によって鑑定の結果を受け入れるか否かで、的中率が大きく左右されることが指摘されている。

12 星座占いにおける的中率に関しては、10 惑星の中の太陽星座のみを用いる 12 星座占いの方の評価が大幅に下がると予測していた。しかし、ある程度の差はあるものの、概ね 12 星座占いに関しても、本格的にホロスコープを用いる方法に比べて、極度にパーセンテージが落ちるということではなかった。その代表的な理由として、千田先生の「太陽星座で出す性格や性質は、ざっくりとした感じであるがためにふんわりしていて、半分程度は当たっている感じがする」が挙げられる。蠍座は神秘的で情が深い、天秤座はファッション関係の職業に向いている、山羊座は勤勉で真面目……というざっくりとした星座が持つ性質は、肯定的に受け止められるという意見が大半であった。また、12 星座占いの“雑誌などの未来予測”に関しては、実際に現在、自分自身で 12

星座占いを執筆している方々（マーク先生、桜倉先生、羽妙先生、錢天牛先生）のパーセンテージが高く、60%以上であった。マーク先生の「プロとしてお金をもらう訳だから、100%と思って書いたり話したりしている」という意見にもあったように、執筆する側は“当たるも八卦、当たらぬも八卦”という姿勢ではなく、的中率が高いことを前提に、12星座占いの未来の運勢を執筆している姿勢がうかがえた。

3問目の“何故今、12星座占いが流行っているのだと思いますか”という問いに対して、筆者では浮かばないような斬新な回答をいただいた。特に田中さんの「西洋占星術の方が絵柄が可愛く、女の子が受け入れやすかったからではないかと思う」というのは、長年雑誌の編集に関わってきた人ならではの意見である。それ以外にも、12という数が妥当であること、細かい変化を取り入れられるためにメディアに掲載しやすい点などが、主要な意見として挙げられた。

特に5問目の、“西洋占星術は有意性があるかないか”という問いに対しては、7人全員が“有意性はあると思う”と回答し、すべての方から熱心にその理由を説明していただいた。プロとして活動していることもあるが、日々密接に西洋占星術と触れていくなかで、それだけ違和感がなく使いこなし続けていることが想像される。挙げいただいた理由のなかで、3人（マーク先生、田中さん、錢天牛先生）がほぼ同じ内容であった。それは、はじめに星に意味づけをしたのではなく、個人個人の性格や性質と、洪水や戦争などの事象を夜空の星と照らし合わせて長い年月をかけて観察し続け、“あの位置に星があると、こうした出来事が起こる”、“一年の中のこの時期に生まれた人は、こうした性質を持つ”というデータを集積し続けた結果、西洋占星術という体系としてまとめ上げられていったという説である。“西洋占星術の歴史”でも振り返ったが、実際に、古代メソポタミアでは長い時間をかけて、粘土板に天の前兆が刻まれ続けてきた。しかし、現在の西洋占星術のなかで主要であるはずの黄道12星座の発祥については、現在不明のままである。現在は解明されていないが、12星座が持つ性質についても、いずれ上記のような説が立証される可能性があることも考えられる。そうすれば、主要な部分である12星座の性質等も思いつきで創造されたものではなく、根拠となる土台を持っていることになるといえるだろう。それ以外にも、現在はまだ解明されていないが、天体から放出される何物かが地上の人間に影響を与えるのではないか、という仮説が、2人（田中さん、千田先生）によって挙げられた。

6問目の“何故、現代になっても西洋占星術は廃れないのか”についても、熱心な回答をいただいた。主に“未来への不安を軽減させる”という理由を挙げる人が多いなかで、錢天牛先生が挙げた「今、星がこうだから上手くいかないのだとか、悪いことがあったのはその星のせいだという理由が見つかり、それが心の拠り所になる」という理由は、文献研究の“占いに対する科学的な見解”で示した、“偶然への理由付け”に結びつく。千田先生の意見である、主にカテゴリー分けによる「私って、こういう人」というアイデンティティの確立も含め、“占いに対する科学的な見解”で示した3人の学

者による研究結果には、長く占いに触れ続けている占星術師たちが、既に体感している要素が含まれていることが分かる。

7人の西洋占星術のスペシャリストによるインタビューを総括すると、相談者や読者の主観、もしくは言葉の言い回しにより、占いが外れたとすることも多々ある。しかし、総じて西洋占星術は有意義な資質や方向性をニュアンスとして示し、ときには驚くほどの的中することもある。そのため、現在の科学では解明されていない何かしらの理由により、有意性を持つものであると、7人全員が考えていることが分かったのである。

第三章：考察

本研究の最大の目的は、“西洋占星術が人々のために役立っている理由は何なのか”を探ることであった。それによって、西洋占星術の存在意義や本質が明確になると同時に、占いを求める人々の心理も見えてくることを期待し、さまざまな角度から研究に取り組んできた。

歴史研究においては、紀元前 2000 年紀の古代メソポタミアの粘土板文書『エヌマ・エリシュ』上の占星術に関する記述から現代に至るまで、西洋占星術が非常に長い歴史を重ね続けてきた様子を追っていった。途中で淘汰されずに現代まで残っているということは、やはりそこに、何かしらの理由が存在することを意味している。約 5 世紀の間にほぼ途絶えた時期もあったが、その間に占星術をつなげていたのは、“下流占星術”と呼ばれる『ルーナリア』や『アルマナック』などの、庶民に支持され続けた占星術であった。

古代メソポタミアの粘土板により、天の前兆の膨大なデータが集められ、それが基となって西洋占星術が確立されていったと考えられる。それは決して科学的とはいえないが、西洋占星術が持つ占術理論のひとつの根拠であるといえるだろう。西洋占星術は、まったく根拠のない架空の創作物ではなかったのである。しかし、黄道 12 星座に関しては発祥は不明である上に粘土板によるデータ蓄積がなされておらず、未だに天動説を基盤としている点、歳差運動により天空の 12 星座と占術で使用する 12 宮が大きくずれている点、2 世紀にプトレマイオスによって、ほぼこじつけとも思える理由により各星座の支配星や惑星の滞在星座による品位などが決められた点などから、現在幅広く一般民に普及している 12 星座の性質に関する根拠は、皆無の状態であるといえる。

このような状態にも関わらず、何故 12 星座占いを含めた占いは、廃れることなく現代に引き継がれているのであろうか。人間が持つ本能の中に、1 つのその理由があった。人間は、“偶然を嫌う”生き物なのである。偶然とは予期しない出来事であり、自分の“スキーマ”の中にそれに対する対処法が存在せず、生命の危険を脅かされる可能性がある。そのため人間は、突発的な出来事が生じた際にも、“何故それが生じたのか”という理由を求めたがるのである。理由を知ること、再発を防止もしくは対処が出来るという、安心感を得ることが出来るのだ。“あの星があの位置にあると、〇〇が起る”と天空の星と地上の出来事を結び付けることにより、突発的な出来事の予測を可能にし、それに対する準備が可能となり、安心感を得る——という偶然への対策が、古代からなされてきた。

それに対し、再現性を持つなど検証可能な物事を扱う科学にとって、“偶然”は対象外の物事である。科学は万能であると思われがちだが、ここに 1 つの盲点があった。占いは、“偶然”に対処する唯一の方法として、その科学の盲点を埋めている。そのために、科学技術がどれほど発達しても、西洋占星術を含めた占いが人々の間から消えることはなかったのである。そして今後も消えることはない、と言い切ることが出来るだろう。さまざまな占術の中でも、特に女性から受け入れられやすい絵柄を持ち、適度な数でのカテゴリ分け

がなされた、商業ベースに乗せやすい 12 星座占いが、主にその役割を担っているのである。

それ以外に、西洋占星術が廃れない理由の 1 つとして、“西洋占星術には、有意性がある”という仮説を立て、プロ野球選手と作家のホロスコープの対比による分析研究と、主に月星座、金星星座、火星星座が持つ性質と主観の一致の割合を調べる質問紙調査を行った。実際に西洋占星術の伝統的な占断に有意性があるのであれば、役立つものとして使用され続けることは当然と思われるためである。

これらの結果のなかで、唯一有意性の存在に期待が持てたのは、分析研究による火星と水星のアスペクトに関してのみであり、それ以外の星座の性質に関する研究は、すべて有意性を見出せない結果となった。そのなかの質問紙調査において、自分の月星座を知っている人だけが自分の月のエレメントの性質を多く選び、自分の月星座を知らない人はまったく反映されなかったという回答結果があった。月星座を知っている人は ABC データのグループであり、自分の金星星座と火星星座も知る、西洋占星術の基本的な知識を持つ人たちである。人間の性格・性質は決して単純なものではなく、さまざまな要素を持ち、非常に複雑な構造となっている。自分のホロスコープを知ることにより、それを一種の地図として自分の性格の分析及び整理がなされ、主に各星座を通して頭の中で 1 つの体系として、“私とはこういう人”というアイデンティティが確立されているのではないかと推測できる。

自分の月星座を知らない人に関しては、月星座のプラスとマイナスの性質を問う Q2 においても、期待する結果とは逆の結果が生じた。それらを踏まえると、西洋占星術の特に各星座の性質の部分においては、“確証バイアスにより当たっていると感じられる”という結論を、取り入れる必要がある。少なくとも今回の研究・調査を通しては、星座の性質における有意性は認められなかったのである。それは、惑星の働きに関しては粘土板に膨大な記録として残されたという長い歴史があるが、黄道 12 星座に関しては、明確な成立方法・時期が不明であり記録が残されていないということに、何か意味があるのではないかと想像させる。唯一差が認められた各惑星のアスペクトの分析研究に関しては、今後の主な研究課題として、検証を続けていく考えである。

インタビュー調査においては、文献研究や筆者自身の経験では得られなかった視点を得ることが出来た。意見が多かったのは、西洋占星術には有意性が存在すると考える理由のなかにあった、“西洋占星術は、経験則によって成立したものである”という説を強調するものである。黄道 12 星座の成立の方法・時期は、未だに解明されず、星座に関する粘土板によるデータは蓄積されていない。しかし記録が見つからないというだけで、遥か昔には星空を教科書にして、人々の出生時期による性格や出来事の予測を、伝え続けていったのかもしれない。その仮説は、いつか立証される日が訪れるのかもしれない。また、科学技術がさらに発達することにより、各惑星から地球に何かしらの物質が届き、それが人間の脳などに影響を与えているという仮説が立証される日が訪れる可能性も、決して完全否定はできない。それらのいずれかが実現すれば、西洋占星術は世間の人々から、現在とはまた違った目で眺められることになるのだろう。

結論

古代メソポタミアの時代から、人々は輝く美しい満天の夜空を見上げて、自分自身の人生や社会の動きに想いを馳せ続けてきた。そして、粘土板に星の動きと地上の出来事の関連性を記録し続け、マクロコスモスである宇宙とミクロコスモスである自分自身を関連付けてきた。星々の動きが地上のすべての運勢を司ると、信じ続けてきたのである。

その頃の、星屑が降り落ちるほどの澄んだ星空がすっかり失われてしまった現代、我々は輝く星空の代わりにパソコンやスマートフォンで惑星の動きを確認し、歴史と共に積み重ねて構築された西洋占星術を通して、自分自身や社会の運勢に思いを馳せている。愛らしくロマンチックな絵柄によって星空が持つ神秘性を引き継ぎ、扱いやすいカテゴリー数を持ち、商業ベースに乗せやすい12星座占いは、さまざまな占術のなかで最も強く、人々に受け入れられ続けてきたのである。

このように、長い時間の経過と共にかたちは変わっていても、人間が本来持つ心の在り方は変わっていないといえるのではないか。それは偶然という出来事を嫌い、自分の未来の生き方に、そして突然起こった出来事にきちんとした理由が欲しいという、人間が不安なく生きていくための本能であるといえるのである。

人間は、まったくかたちを見せない白紙状態である未来に常に不安を感じ、案じ続ける生物である。12星座占いを含めた西洋占星術は、そうした未来への不安を抱え続ける人類に対して、長いこと生きる指針や方向性を与え、アイデンティティを確立させて、安心感・安定感を与え続けてきた。今日は大事な試験の日、会議の日であるときは、テレビ番組の“今日の星占い”を注視し、恋愛で悩む若者は、雑誌の“今月の恋愛運”の項目を熟読する。そこには、“もしかしたら、素晴らしい出来事があるのかもしれない”という“生きる希望”も秘められているのではないか。西洋占星術は、まだまっさらな状態である“今日の私”や“今月の私”に色付けをし、生きる方向性をつけて心の拠り所を与えてきた。また、まったく知らない異性と出会ったら相手のホロスコープを調べ、“あの人は、こんな人”という色付けをし、そこから交際への対処法を見出すことも出来た。目に見えない、まっさらな未来への色付けへの希求、偶然起こった出来事への理由と意味付けの希求、そして“私は何者であるか”という関心——それらが、西洋占星術の長きにわたる存続を支え続けた人間の心理であった。大事なことは、そこに西洋占星術に有意性があるかないかということは、それほど大きな問題ではなかったということである。

科学技術がどれほど発達したとしても、それらは科学では求めることが出来ない、占いだけが行える業なのである。未来を案じる人間がこの世に生き続ける限り、西洋占星術を含めた占いは決して廃れることなく、今後も人々に生きる指針や安心感を与え続けていくのであると、断言することが出来る。

謝辞

この卒業論文を通して、長く関わり続けてきた占いの根本について、深く見直す機会をいただきました。まずはそのことに、心より深く感謝を申し上げます。

表象文化論のゼミ生として迎え入れていただき、そしてご指導をいただきました中村要先生、論文作成においてご助言及びご指導をいただきました前文章教育コーチ、本当に有難うございました。お陰様で、大変有意義な卒業研究活動を行うことが出来ました。

そして非常に良い参考資料となった卒業論文を送っていただきましたゼミの先輩方、ご多忙の中、インタビューを快く受けいただきました西洋占星術の7人のスペシャリストの方々、アンケート調査においてご回答いただきました343人の方々、同調査においてFacebook上でのシェア、Twitter上でのリツイートで募集情報を拡散していただきました方々、温かい応援のメッセージをいただきました学友たち並びに占いファンの皆様、本当に有難うございました。どれ1つ欠けていても、この論文は成り立たなかったと思っています。心より感謝を申し上げます。

天空の星々に、西洋占星術を生み出し、その歴史に携わってきた方々すべてにも、心より感謝を申し上げます。本当に有難うございました。

参考・引用文献

<本文註リスト>

- 1) 矢野道雄『星占いの文化交流史』勁草書房、2004、p97
- 2) 矢野道雄『星占いの文化交流史』勁草書房、2004、p128
- 3) 板橋作美『占いにはまる女性と若者』青弓社、2013、p26
- 4) H.J.アイゼンク・D.K.B.ナイアス共著、岩脇三良・浅川潔司共訳『占星術－科学か迷信か』誠信書房、1986、p30
- 5) H.J.アイゼンク・D.K.B.ナイアス共著、岩脇三良・浅川潔司共訳『占星術－科学か迷信か』誠信書房、1986、p37
- 6) 千葉テレビ放送「朝まる JUST」1998年6月から2009年9月まで毎日の占いを担当。
- 7) ニコラス・キャンピオン著、鏡リュウジ監訳『世界史と西洋占星術』柏書房、2012、p439
- 8) H.J.アイゼンク・D.K.B.ナイアス共著、岩脇三良・浅川潔司共訳『占星術－科学か迷信か』誠信書房、1986、p90
- 9) H.J.アイゼンク・D.K.B.ナイアス共著、岩脇三良・浅川潔司共訳『占星術－科学か迷信か』誠信書房、1986、p65
- 10) H.J.アイゼンク・D.K.B.ナイアス共著、岩脇三良・浅川潔司共訳『占星術－科学か迷信か』誠信書房、1986、p236
- 11) ミチユウ「太陽系意識とつながるインド占星術講座ブログ」2015
<http://jyotish.michiyuu.info/b/c01/entry14.html> (2016年3月参照)
占星術アカデミー「インド占星術鑑定室 スポーツ選手の特徴」 2014
<http://chardash21.astro459.com/?eid=1428581> (2016年3月参照)
- 12) H.J.アイゼンク・D.K.B.ナイアス共著、岩脇三良・浅川潔司共訳『占星術－科学か迷信か』誠信書房、1986、p244
- 13) 「2016 プロ野球全選手カラー写真年鑑」、『週刊ベースボール増刊』2016,2.20号 ベースボールマガジン社
- 14) 日本プロ野球名球会公式ホームページ 「Golden Players Club」
<http://meikyu-kai.org/> (2016年3月参照)
- 15) Wikipedia 「日本の小説家一覧」
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E3%81%AE%E5%B0%8F%E8%AA%AC%E5%AE%B6%E4%B8%80%E8%A6%A7> (2016年3月参照)
- 16) ルル・ラブア『星占い ホロスコープ入門』実業之日本社、1982、P157
- 17) ルル・ラブア『星占い ホロスコープ入門』実業之日本社、1982、P162

- 18) ルル・ラブア『アスペクト占星術』学習研究社、1991、p162
- 19) ルル・ラブア『アスペクト占星術』学習研究社、1991、p144－145
- 20) 占い師・藤森緑の雑感「西洋占星術に関するアンケートのお願い」
<http://fujimido.cocolog-nifty.com/fujilog/2016/04/post-037e.html> (2016年4月28日公開)
- 21) 矢野道雄『星占いの文化交流史』勁草書房、2004、p9
- 22) 近藤二郎『わかってきた星座神話の起源』誠文堂新光社、2010、p12－19
- 23) 近藤二郎『わかってきた星座神話の起源』誠文堂新光社、2010、p7
- 24) 矢野道雄『星占いの文化交流史』勁草書房、2004、p10－11
- 25) 月本昭男『古代メソポタミアの神話と儀礼』岩波書店、2010、p85
- 26) S.J Tester 著、山本啓二訳『西洋占星術の歴史』恒星社厚生閣、1997、p19－20
- 27) 近藤二郎『わかってきた星座神話の起源』誠文堂新光社、2010、p21
- 28) 近藤二郎『わかってきた星座神話の起源』誠文堂新光社、2010、p156－157
- 29) タムシン・バートン著、豊田彰訳『古代占星術—その歴史と社会的機能』法政大学出版局、2004、p21－23
- 30) 近藤二郎『わかってきた星座神話の起源』誠文堂新光社、2010、p34－35
- 31) 近藤二郎『わかってきた星座神話の起源』誠文堂新光社、2010、p48－76
- 32) タムシン・バートン著、豊田彰訳『古代占星術—その歴史と社会的機能』法政大学出版局、2004、p25－27
- 33) 中山茂『占星術—その科学史上の位置—』朝日新聞社、1993、p94－95
- 34) 矢野道雄『星占いの文化交流史』勁草書房、2004、p36－38
- 35) タムシン・バートン著、豊田彰訳『古代占星術—その歴史と社会的機能』法政大学出版局、2004、p40
- 36) 中山茂『占星術—その科学史上の位置—』朝日新聞社、1993、p105
- 37) ニコラス・キャンピオン著、鏡リュウジ監訳『世界史と西洋占星術』柏書房、2012、p19
- 38) 矢野道雄『星占いの文化交流史』勁草書房、2004、p50－51
- 39) 中山茂『占星術—その科学史上の位置—』朝日新聞社、1993、p112－115
- 40) 矢野道雄『星占いの文化交流史』勁草書房、2004、p52－58
- 41) ニコラス・キャンピオン著、鏡リュウジ監訳『世界史と西洋占星術』柏書房、2012、p15－52
- 42) タムシン・バートン著、豊田彰訳『古代占星術—その歴史と社会的機能』法政大学出版局、2004、p105－107
- 43) タムシン・バートン著、豊田彰訳『古代占星術—その歴史と社会的機能』法政大学出版局、2004、p138
- 44) 中山茂『占星術—その科学史上の位置—』朝日新聞社、1993、p123

- 45) ニコラス・チャンピオン著、鏡リュウジ監訳『世界史と西洋占星術』柏書房、2012、p58－60
- 46) ニコラス・チャンピオン著、鏡リュウジ監訳『世界史と西洋占星術』柏書房、2012、p69－72
- 47) ニコラス・チャンピオン著、鏡リュウジ監訳『世界史と西洋占星術』柏書房、2012、p88－91
- 48) ニコラス・チャンピオン著、鏡リュウジ監訳『世界史と西洋占星術』柏書房、2012、p101－103
- 49) ニコラス・チャンピオン著、鏡リュウジ監訳『世界史と西洋占星術』柏書房、2012、p141
- 50) ニコラス・チャンピオン著、鏡リュウジ監訳『世界史と西洋占星術』柏書房、2012、p108－109
- 51) ニコラス・チャンピオン著、鏡リュウジ監訳『世界史と西洋占星術』柏書房、2012、p145
- 52) 長島晶裕・ORG『星空の神々』新紀元社、1999、p259
- 53) ニコラス・チャンピオン著、鏡リュウジ監訳『世界史と西洋占星術』柏書房、2012、p148－157
- 54) ニコラス・チャンピオン著、鏡リュウジ監訳『世界史と西洋占星術』柏書房、2012、p193－195
- 55) ジャン＝ピエール・モーリ著、田中一郎監修『ガリレオ』創元社、2008、p19
- 56) ニコラス・チャンピオン著、鏡リュウジ監訳『世界史と西洋占星術』柏書房、2012、p234－237
- 57) ニコラス・チャンピオン著、鏡リュウジ監訳『世界史と西洋占星術』柏書房、2012、p241－245
- 58) ジャン＝ピエール・モーリ著、田中一郎監修『ガリレオ』創元社、2008、p24
- 59) ニコラス・チャンピオン著、鏡リュウジ監訳『世界史と西洋占星術』柏書房、2012、p253－254
- 60) 中山茂『占星術—その科学史上の位置—』朝日新聞社、1993、p136
- 61) ニコラス・チャンピオン著、鏡リュウジ監訳『世界史と西洋占星術』柏書房、2012、p251
- 62) 長島晶裕・ORG『星空の神々』新紀元社、1999、p260
- 63) ニコラス・チャンピオン著、鏡リュウジ監訳『世界史と西洋占星術』柏書房、2012、p305
- 64) ニコラス・チャンピオン著、鏡リュウジ監訳『世界史と西洋占星術』柏書房、2012、p296
- 65) ニコラス・チャンピオン著、鏡リュウジ監訳『世界史と西洋占星術』柏書房、2012、

p322

- 66) ニコラス・キャンピオン著、鏡リュウジ監訳『世界史と西洋占星術』柏書房、2012、p400
- 67) タムシン・バートン著、豊田彰訳『古代占星術—その歴史と社会的機能』法政大学出版局、2004、p5
- 68) ニコラス・キャンピオン著、鏡リュウジ監訳『世界史と西洋占星術』柏書房、2012、p446－450
- 69) ニコラス・キャンピオン著、鏡リュウジ監訳『世界史と西洋占星術』柏書房、2012、p314－317
- 70) 松村潔『占星術のシクミがわかる本』シャングリラ・プレス、1996、p58－59
- 71) 菊池聡『超常現象をなぜ信じるのか』講談社ブルーバックス、1998、p15
- 72) 菊池聡『超常現象をなぜ信じるのか』講談社ブルーバックス、1998、p32－33
- 73) 板橋作美『占いにはまる女性と若者』青弓社、2013、p60－61
- 74) 板橋作美『占いにはまる女性と若者』青弓社、2013、p121
- 75) 板橋作美『占いにはまる女性と若者』青弓社、2013、p76
- 76) 板橋作美『占いにはまる女性と若者』青弓社、2013、p67
- 77) 板橋作美『占いにはまる女性と若者』青弓社、2013、p75
- 78) 板橋作美『占いにはまる女性と若者』青弓社、2013、p205－206
- 79) 板橋作美『占いにはまる女性と若者』青弓社、2013、p84
- 80) 板橋作美『占いにはまる女性と若者』青弓社、2013、p78－79
- 81) 板橋作美『占いにはまる女性と若者』青弓社、2013、p51
- 82) 板橋作美『占いにはまる女性と若者』青弓社、2013、p56－57
- 83) 板橋作美『占いにはまる女性と若者』青弓社、2013、p152
- 84) 中山茂『占星術—その科学史上の位置—』朝日新聞社、1993、p121
- 85) 石川幹人『「超常現象」を本気で科学する』新潮新書、2014、p64
- 86) 菊池聡『超常現象をなぜ信じるのか』講談社ブルーバックス、1998、p116－118
- 87) 菊池聡『超常現象をなぜ信じるのか』講談社ブルーバックス、1998、p49－50
- 88) 菊池聡『超常現象をなぜ信じるのか』講談社ブルーバックス、1998、p180－181
- 89) 菊池聡『超常現象をなぜ信じるのか』講談社ブルーバックス、1998、p188
- 90) 石川幹人『「超常現象」を本気で科学する』新潮新書、2014、p59
- 91) 板橋作美『占いにはまる女性と若者』青弓社、2013、p65

参照資料：プロ野球選手と作家の全データ（分析研究）

プロ野球選手データ一覧（2016年度の時点のNPB在籍年数9年以上220人＋名球会入り
会員52人の272名）

※名前、NPB在籍年数、生年月日の掲載順

2016年度の時点のNPB在籍年数9年以上の現役選手

福岡ソフトバンクホークス（24人）

中田賢一 12年 1982.5. 11、松坂大輔 10年 1980.9. 13、森福允彦 10年 1986.7.
29、寺原隼人 15年 1983.10. 9、和田毅 10年 1981.2. 21、大隣憲司 10年 1984.11.
19、五十嵐亮太 16年 1979.5. 28、柳瀬明宏 10年 1983.7. 8、高谷裕亮 10年
1981.11. 13、細川亨 15年 1980.1. 4、鶴岡慎也 14年 1981.4. 11、金子圭輔 13
年 1985.7. 23、松田宣浩 11年 1983.5. 17、川島慶三 11年 1983.10. 5、明石健
志 12年 1986.1. 9、本多雄一 11年 1984.11. 19、内川聖一 16年 1982.8. 4、吉
村裕基 14年 1984.6. 14、城所龍磨 13年 1985.9. 24、長谷川勇也 10年 1984.12.
22、福田秀平 10年 1989.2. 10、江川智晃 12年 1986.10. 31、岩寄翔 9年 1989.10.
21、中村晃 9年 1989.11. 5

北海道日本ハムファイターズ（11人）

石井裕也 12年 1981.7. 4、武田久 14年 1978.10. 14、藤岡好明 11年 1985.3.
12、須永英輝 13年 1985.10. 28、吉川光夫 10年 1988.4. 6、武田勝 11年 1978.7.
10、田中賢介 15年 1981.5. 20、飯山裕志 19年 1979.7. 13、矢野謙次 14年 1980.9.
21、宮西尚生 9年 1985.6. 2、中田翔 9年 1989.4. 22

千葉ロッテマリーンズ（19人）

大嶺祐太 10年 1988.6. 16、涌井秀章 12年 1986.6. 21、内竜也 13年 1985.7.
13、古谷拓哉 11年 1981.7. 14、田中靖洋 11年 1987.6. 21、金森敬之 12年 1985.7.
24、金澤岳 14年 1984.5. 5、根元俊一 11年 1983.7. 8、井口資仁 16年 1974.12.
4、福浦和也 23年 1975.12. 14、大松尚逸 12年 1982.6. 16、細谷圭 11年 1988.1.
17 青松慶佑 12年 1986.12. 7、サブロー 22年 1976.6. 1、角中勝也 10年 1987.5.
25、唐川侑己 9年 1989.7. 5、伊藤義弘 9年 1982.6. 2、阿部和成 9年 1989.5.
19、高濱卓也 9年 1989.7. 6

埼玉西武ライオンズ（16人）、岸孝之 10年 1984.12. 4、岡本篤志 13年 1981.5. 20、

星孝典 12年 1982.5. 4、炭谷銀仁朗 11年 1987.7. 19、上本達之 14年 1980. 11.8、渡辺直人 10年 1980.10. 15、中村剛也 15年 1983.8. 15、栗山巧 15年 1983.9. 3、竹原直隆 12年 1980.4. 21、大崎雄太郎 10年 1984. 10.18、木村文紀 10年 1988.9. 13、藤原良平 9年 1986.2. 15、武隈祥太 9年 1989.11. 24、中田祥多 9年 1990.2. 22、鬼崎裕司 9年 1983.4. 7、斎藤彰吾 9年 1989.5. 14

オリックス・バファローズ (16人)

平野佳寿 11年 1984.3. 8、岸田護 11年 1981.5. 10、金子千尋 12年 1983.11. 8、小松聖 10年 1981.10. 29、近藤一樹 12年 1983. 7.8、齋藤俊雄 12年 1983.12. 23、山崎勝己 16年 1982. 8.16、田中大輔 10年 1984.12. 18、中島宏之 14年 1982.7. 31、原拓也 10年 1984.5. 18、小谷野栄一 14年 1980.10. 10、糸井嘉男 13年 1981.7. 31、Tー岡田 11年 1988.2. 9、中村一生 12年 1982.4. 2、白仁田寛和 9年 1985.10. 2、伊藤光 9年 1989.4. 23

東北楽天ゴールデンイーグルス (18人)

金刃憲人 10年 1984.4. 10、青山浩二 11年 1983.8. 12、川井貴志 18年 1976.9. 16、嶋基宏 10年 1984.12. 13、川本良平 12年 1982.4. 28、栗原健太 17年 1982.1. 8、後藤光尊 15年 1978.7. 27、藤田一也 12年 1982.7. 3、今江敏晃 15年 1983.8. 26、銀次 11年 1988.2. 24、岩崎達郎 10年 1984.12. 28、松井稼頭央 16年 1975.10. 23、牧田明久 16年 1982.6. 3、柊田慎太郎 11年 1987.7. 8、長谷部康平 9年 1985.5. 21、菊池保則 9年 1989.9. 18、伊志嶺忠 9年 1985.6. 22、聖澤諒 9年 1985.11. 3

東京ヤクルトスワローズ (21人)

成瀬善久 13年 1985.10. 13、石川雅規 15年 1980.1. 22、松岡健一 12年 1982.6. 7、館山昌平 14年 1981.3. 17、村中恭兵 11年 1987.10. 25、新垣渚 14年 1980.5. 9、田中雅彦 13年 1982.1. 9、井野卓 11年 1983.11. 23、大引啓次 10年 1984.6. 29、川端慎吾 11年 1987.10. 16、田中浩康 12年 1982.5. 24、武内晋一 11年 1983.12. 10、森岡良介 11年 1984.7. 15、畠山和洋 16年 1982.9. 13、今浪隆博 10年 1984.7. 6、飯原誉士 11年 1983.4. 26、雄平 14年 1984.6. 25、坂口智隆 14年 1984.7. 7、上田剛史 10年 1988.10. 2、鶴久森淳志 12年 1987.2. 1、三輪正義 9年 1984.1. 23

読売ジャイアンツ (22人)

香月良太 13年 1982.7. 27、大竹寛 15年 1983.5. 21、杉内俊哉 15年 1980.10.30、内海哲也 13年 1982.4. 29、西村健太郎 13年 1985.5. 10、山口鉄也 11年 1983.11. 1

11、相川亮二 22年 1976.7. 11、実松一成 18年 1981.1. 18、加藤健 18年 1981.3.
23、寺内崇幸 10年 1983.5. 27、脇谷亮太 10年 1981.11. 4、坂本勇人 10年 1988.12.
14、片岡治大 12年 1983.2. 17、阿部慎之助 16年 1979.3. 20、村田修一 14年
1980.12. 28、亀井善行 12年 1982.7. 28、鈴木尚広 20年 1978.4. 27、松本哲也 10
年 1984.7. 3、堂上剛裕 13年 1985.5. 27、北篤 10年 1988.11. 26、藤村大輔 9
年 1989.7. 25、中井大輔 9年 1989.11. 27

阪神タイガース (23人)

能見篤史 12年 1979.5. 28、安藤優也 15年 1977.12. 27、藤川球児 15年 1980.7.
21、筒井和也 13年 1981.10. 5、岩田稔 11年 1983.10. 31、福原忍 18年 1976.12.
28、小嶋達也 10年 1985.10. 7、高宮和也 11年 1981.12. 4、高橋聡文 15年 1983.5.
29、鶴直人 11年 1987.4. 25、小宮山慎二 13年 1985.11. 26、鶴岡一成 21年
1977.5. 30、清水誉 10年 1984.4. 23、岡崎太一 12年 1983.6. 20、鳥谷敬 13年
1981.6. 26、西岡剛 12年 1984.7. 27、新井良太 11年 1983.8. 16、坂克彦 13
年 1985.9. 6、今成亮太 11年 1987.10. 6、大和 11年 1987.11. 5、福留孝介 13
年 1977.4. 26、狩野恵輔 16年 1982.12. 17、桑原謙太郎 9年 1985.10. 29

広島東洋カープ (19人)

黒田博樹 13年 1975.2. 10、永川勝浩 14年 1980.12. 14、江草仁貴 14年 1980.9.
3、今井啓介 11年 1987.5. 24、久本祐一 14年 1979.3. 14、會澤翼 10年 1988.4.
13、石原慶幸 15年 1979.9. 7、白濱裕太 13年 1985.10. 31、倉義和 19年 1975.7.
27、梵英心 11年 1980.10. 11、新井貴浩 18年 1977.1. 30、中東直己 10年 1981.10.
5、廣瀬純 16年 1979.3. 29、赤松真人 12年 1982.9. 6、天谷宗一郎 15年 1983.11.
8、小窪哲也 9年 1985.4. 12、安倍友裕 9年 1989.6. 24、丸佳浩 9年 1989.4. 11、
松山竜平 9年 1985.9. 18

中日ドラゴンズ (15人)

岩瀬仁紀 18年 1974.11. 10、雄太 12年 1980.6. 17、吉見一起 11年 1984.9. 19、
山井大介 15年 1978.5. 10、浅尾拓也 10年 1984.10. 22、八木智哉 11年 1983.11.
7、武山真吾 14年 1984.6. 22、荒木雅博 21年 1977.9. 13、森野将彦 20年 1978.7.
28、福田永将 10年 1988.7. 23、堂上直倫 10年 1988.9. 23、藤井敦志 11年 1981.5.
20、平田良介 11年 1988.3. 23、工藤隆人 12年 1981.3. 30、谷哲也 9年 1988.9.
23

横浜 DeNA ベイスターズ (16人)

久保裕也 14年 1980.5. 23、山口俊 11年 1987.7. 11、三浦大輔 25年 1973.12.

25、高崎健太郎 10年 1985.6.24、林昌範 15年 1983.9.19、久保康友 12年 1980.8.6、長田秀一郎 14年 1980.5.6、黒羽根利規 11年 1987.6.2、石川雄洋 12年 1986.7.10、柳田殖生 11年 1982.3.31、後藤 G 武敏 14年 1980.6.5、梶谷隆幸 10年 1988.8.28、井手正太郎 15年 1983.10.10、下園辰哉 10年 1984.11.22、田中健二郎 9年 1989.9.18、内村賢介 9年 1986.3.17

名球会入りの選手（現役と外国出生を除く）（52人）

江夏豊 1948.5.15、北別府学 1957.7.12、工藤公康 1963.5.5、小山正明 1934.7.28、佐々木主浩 1968.2.22、鈴木啓示 1947.9.28、高津臣吾 1968.11.25、野茂英雄 1968.8.31、東尾修 1950.5.18、平松正次 1947.9.19、村田兆治 1949.11.27、山田久志 1948.7.29、山本昌弘 1965.8.11、米田哲也 1938.3.3、秋山幸二 1962.4.6、新井宏昌 1952.4.26、有藤通世 1946.12.17、石井琢朗 1970.8.25、稲葉篤紀 1972.8.3、王貞治 1940.5.20、大島康則 1950.10.16、小笠原道大 1973.10.25、加藤秀司 1948.5.24、門田博光 1948.2.26、金本知憲 1968.4.3、衣笠祥雄 1947.1.18、清原和博 1967.8.18、小久保裕紀 1971.10.8、駒田徳広 1962.9.14、柴田勲 1944.2.8、高木守道 1941.7.17、立浪和義 1969.8.19、田中幸雄 1967.12.14、谷繁元信 1970.12.21、土井正博 1943.12.8、長嶋茂雄 1936.2.20、中村紀洋 1973.7.24、野村克也 1935.6.29、野村謙二郎 1966.9.19、張本勲 1940.6.19、広瀬叔功 1936.8.27、福本豊 1947.11.7、藤田平 1947.10.19、古田敦也 1965.8.6、松井秀喜 1974.6.12、松原誠 1944.1.13、前田智徳 1971.6.14、宮本慎也 1970.11.5、山崎裕之 1946.12.22、山本浩二 1946.10.25、若松勉 1947.4.17、和田一浩 1972.6.19

作家データ一覧（単著 10 冊以上を持つ日本出生の専業作家 454 人）

※名前、読み仮名、生年月日の掲載順

あ行（105人）

阿井 渉介（あい しょうすけ、1941.12.2）、愛川 晶（あいかわ あきら、1957.5.30）、相場英雄（あいば ひでお、1967.9.18）、青木 淳悟（あおき じゅんご、1979.5.9）、碧野 圭（あおの けい、1959.6.21）、青野 聡（あおの そう、1943.7.27）、青柳 碧人（あおやぎ あいと、1980.8.26）、青山 七恵（あおやま ななえ、1983.1.20）、赤川 次郎（あかがわ じろう、1948.2.29）、赤坂 真理（あかさか まり、1964.5.13.）、赤羽 建美（あかばね たつみ、1944.1.14）、秋津 透（あきつ とおる、1960.2.16）、秋月 達郎（あきづき たつろう、1959.5.15）、秋月 涼介（あきづき りょうすけ、1971.5.11）、日日日（あきら、男性、1986.7.29）、明野 照葉（あけの てるは、1959.6.25）、朝井 リョウ（あさい リョウ、1989.5.31）、朝倉 かすみ（あさくら かすみ、1960.8.10）、浅暮 三文（あさぐれ みつふみ、1959.3.21）、浅田 次郎（あさだ じろう、1951.12.13）、あさの あつこ（1954.9.14）、

朝松 健（あさまつ けん、1956.4.10）、芦原 すなお（あしはら すなお、1949.9.13）、芦
辺 拓（あしべ たく、1958.5.21）、飛鳥部 勝則（あすかべ かつのり、1964.10.18）、東
浩紀（あずま ひろき、1971.5.9）、我孫子 武丸（あびこ たけまる、1962.10.7）、阿部 和
重（あべ かずしげ、1968.9.23）、安部 龍太郎（あべ りゅうたろう、1955.6.20）、綾辻 行
人（あやつじ ゆきと、1960.12.23）、新井 素子（あらい もとこ、1960.8.8）、嵐山 光三
郎（あらしやま こうざぶろう、1942.1.10）、有川 浩（ありかわ ひろ、1972.6.9）、有栖
川 有栖（ありすがわ ありす、1959.4.26）、有吉 玉青（ありよし たまお、1963.11.16）、
庵田 定夏（あんだ さだなつ、1988.8.8）、伊井 直行（いい なおゆき、1953.9.1）、飯野
文彦（いいの ふみひこ、1961.6.16）、五十嵐 貴久（いがらし たかひさ、1961.12.14）、
池井戸 潤（いけいど じゅん、1963.6.16）、池上 永一（いけがみ えいいち、1970.5.24）、
池澤 夏樹（いけざわ なつき、1945.7.7）、池永 陽（いけなが よう、1950.6.29）、伊坂 幸
太郎（いさか こうたろう、1971.5.25）、井沢 元彦（いざわ もとひこ、1954.2.1）、石井
光太（いしい こうた、1977.2.7）、いしい しんじ（1966.2.15）、石田 衣良（いしだ い
ら、1960.3.28）、石持 浅海（いしもち あさみ、1966.12.7）、伊集院 静（いじゅういん し
ずか、1950.2.9）、磯崎 憲一郎（いそざき けんいちろう、1965.2.28）、市川 拓司（いち
かわ たくじ、1962.10.7）、伊藤 たかみ（いとう たかみ、1971.4.5）、絲山 秋子（いと
やま あきこ、1966.11.22）、稲葉 真弓（いなば まゆみ、1950.3.8）、乾 くるみ（いぬい
くるみ、1963.10.30）、乾 ルカ（いぬい るか、1970.2.11）、井上 荒野（いのうえ あれ
の、1961.2.4）、井上雅彦（いのうえ まさひこ、1960.1.13）、井上 祐美子（いのうえ ゆ
みこ、1958.11.4）、井上 夢人（いのうえ ゆめひと、1950.12.9）、今邑 彩（いまむら あ
や、1955.3.13）、岩井 三四二（いわい みよじ、1958.8.25）、岩阪 恵子（いわさか け
いこ、1946.6.17）、宇江佐 真理（うえざ まり、1949.10.20）、上田 早夕里（うえだ さ
ゆり、1964.10.26）、上橋 菜穂子（うえはし なほこ、1962.7.15）、植松 三十里（うえま
つ みどり、1954.11.23）、魚住 陽子（うおずみ ようこ、1951.10.23）、薄井 ゆうじ（う
すい ゆうじ、1949.1.1）、歌野 晶午（うたの しょうご、1961.9.26）、打海 文三（うち
うみ ぶんぞう、1948.8.4）、宇月原 晴明（うつきばら はるあき、1963.12.15）、冲方 丁
（うぶかた とう、1977.2.14）、梅原 克文（うめはら かつふみ、1960.9.9）、浦賀 和宏
（うらが かずひろ、1978.12.8）、嬉野 秋彦（うれしの あきひこ、1971.4.19）、江國 香
織（えくに かおり、1964.3.21）、江波戸 哲夫（えばと てつお、1946.7.10）海老沢 泰
久（えびさわ やすひさ、1950.1.22）、円城 塔（えんじょう とう、1972.9.15）、逢坂 剛
（おうさか ごう、1943.11.1）、大石英司（おおいし えいじ、1961.4.8）、大石 圭（おお
いし けい、1961.5.10）、大石 直紀（おおいし なおき、1958.4.27）、大岡 玲（おおおか
あきら、1958.10.16）、大崎 善生（おおさき よしお、1957.12.11）、大沢 在昌（おおさ
わ ありまさ、1956.3.8）、大下英治（おおした えいじ、1944.6.7）、太田 忠司（おおた た
だし、1959.2.24）、大場 惑（おおば わく、1955.5.13）、大原 まり子（おおはら まりこ、
1959.3.20）、岡崎 弘明（おかざき ひろあき、1960.4.4）、小川 洋子（おがわ ようこ、

1962.3.30)、荻野 アンナ (おぎの あんな、1956.11.7)、荻原 浩 (おぎわら ひろし、1956.6.30)、奥泉 光 (おくいずみ ひかる、1956.2.6)、奥田 英朗 (おくだ ひでお、1959.10.23)、落合 恵子 (おちあい けいこ、1945.1.15)、落合 信彦 (おちあい のぶひこ、1942.1.8)、乙一 (おついち、1978.10.21)、乙川 優三郎 (おとかわ ゆうざぶろう、1953.2.17)、小野 不由美 (おの ふゆみ、1960.12.24)、折原 一 (おりはら いち、1951.11.16)、恩田 陸 (おんだ りく、1964.10.25)

か行 (62人)

垣根 涼介 (かきね りょうすけ、1966.4.27)、岳 真也 (がく しんや、1947.11.5)、角田 光代 (かくた みつよ、1967.3.8)、景山 民夫 (かげやま たみお、1947.3.20)、笠井 潔 (かさい きよし、1948.11.18)、葛西 伸哉 (かさい しんや、1965.7.21)、梶尾 真治 (かじ お しんじ、1947.12.24)、鹿島田 真希 (かしまだ まき、1976.10.26)、柏葉 幸子 (かしわば さちこ、1953.6.9)、霞 流一 (かすみ りゅういち、1959.5.18)、片山 恭一 (かたやま きょういち、1959.1.5)、門井 慶喜 (かどい よしのぶ、1971.11.2)、加堂 秀三 (かどう しゅうぞう、1940.4.11)、上遠野 浩平 (かどの こうへい、1968.12.12)、金井 美恵子 (かない みえこ、1947.11.3)

金原 ひとみ (かねはら ひとみ、1983.8.8)、加納 朋子 (かのう ともこ、1966.10.19)、香納 諒一 (かのう りょういち、1963.1.16)、神永 学 (かみなが まなぶ、1974.8.3)、川上 健一 (かわかみ けんいち、1949.8.7)、川上 弘美 (かわかみ ひろみ、1958.4.1)、川田 拓矢 (かわた たくや 1949.5.5)、川又 千秋 (かわまた ちあき、1948.12.4)、神林 長平 (かんばやし ちょうへい、1953.7.10)、かんべ むさし (1948.1.16)、菊地 秀行 (きくち ひでゆき、1949.9.25)、貴志 祐介 (きし ゆうすけ、1959.1.3)、北方 謙三 (きたかた けんぞう、1947.10.26)、喜多嶋 隆 (きたじま たかし、1949.5.10)、北野 勇作 (きたの ゆうさく、1962.3.22)、北原 尚彦 (きたはら なおひこ、1962.12.10)、北村 薫 (きたむら かおる、1949.12.28)、北森鴻 (きたもり こう、1961.11.15)、北山 猛邦 (きたやま たけくに、1979.8.9)、桐野 夏生 (きりの なつお、1951.10.7)、京極 夏彦 (きょうごく なつひこ、1963.3.26)、日下 圭介 (くさか けいすけ、1940.1.21)、草上 仁 (くさかみ じん、1959.12.20)、櫛木 理宇 (くしき りう、1972.7.29)、楠木 誠一郎 (くすのき せいいちろう、1960.3.14)、熊谷 達也 (くまがい たつや、1958.4.25)、久美 沙織 (くみ さおり、1959.4.30)、倉阪 鬼一郎 (くらさか きいちろう、1960.1.28)、栗本 薫 (くりもと かおる、1953.2.13)、車谷 長吉 (くるまたに ちょうきつ、1945.7.1)、黒 史郎 (くろ しろう、1974.12.27)、黒川 博行 (くろかわ ひろゆき、1949.3.4)、黒田 研二 (くろだ けんじ、1969.1.13)、玄月 (げんげつ、1965.2.10)、小嵐 九八郎 (こあらし くはちろう、1944.7.31)、小池 昌代 (こいけ まさよ、1959.7.17)

小池 真理子 (こいけ まりこ、1952.10.28)、小杉 健治 (こすぎ けんじ、1947.3.20)、五代 ゆう (ごだい ゆう、1970.8.7)、小手鞠 るい (こでまり るい、1956.3.17)、古処 誠

二（こどころ せいじ、1970.3.10）、小林 恭二（こばやし きょうじ、1957.11.9）、小林 弘利（こばやし ひろとし、1960.3.29）、小林 めぐみ（こばやし めぐみ、1972.2.24）、小林 泰三（こばやし やすみ、1962.8.7）、近藤 史恵（こんどう ふみえ、1969.5.20）、今野 敏（こんの びん、1955.9.27）

さ行（58人）

西條 奈加（さいじょう なか、1964.11.9）、斎藤 綾子（さいとう あやこ、1958.4.7）、斎藤 純（さいとう じゅん、1957.1.5）、佐伯 一麦（さえき かずみ、1959.7.21）、佐伯 泰英（さえき やすひで、1942.2.14）、榊 一郎（さかき いちろう、1969.11.23）、酒見 賢一（さけみ けんいち、1963.11.26）、佐川 光晴（さがわ みつはる、1965.2.8）、鷺沢 萌（さぎさわ めぐむ、1968.6.20）、桜庭 一樹（さくらば かずき、1971.7.26）、佐々木 譲（ささき じょう、1950.3.16）、佐々木 丸美（ささき まるみ、1949.1.23）、笹倉 明（ささくら あきら、1948.11.14）、笹本 祐一（ささもと ゆういち、1963.2.18）、笹本 稜平（ささもと りょうへい、1951.10.9）、佐藤 亜紀（さとう あき、1962.9.16）、佐藤 亜有子（さとう あゆこ、1969.10.19）、佐藤 賢一（さとう けんいち、1968.3.12）、佐藤 正午（さとう しょうご、1955.8.25）、佐藤 多佳子（さとう たかこ、1962.11.16）、佐藤 哲也（さとう てつや、1960.12.25）、佐藤 雅美（さとう まさよし、1941.1.14）、沢木 耕太郎（さわき こうたろう、1947.11.29）、沢村 鐵（さわむら てつ、1970.11.11）、沢村 凜（さわむら りん、1963.7.5）、重松 清（しげまつ きよし、1963.3.6）、零井 脩介（しずくい しゅうすけ、1968.11.14）、篠田 節子（しのだ せつこ、1955.10.23）、柴崎 友香（しばさき ともか、1973.10.20）、柴田 哲孝（しばた てつたか、1957.8.7）、柴田 よしき（しばた よしき、1959.10.14）、島田 莊司（しまだ そうじ、1948.10.12）、島田 雅彦（しまだ まさひこ、1961.3.13）、島本 理生（しまもと りお、1983.5.18）、島村 洋子（しまむら ようこ、1964.10.30）、清水 義範（しみず よしのり、1947.10.28）、志茂田 景樹（しもだ かげき、1940.3.25）、朱川 湊人（しゅかわ みなと、1963.1.7）、殊能 将之（しゅのう まさゆき、1964.1.19）、庄司 卓（しょうじ たかし、1963.7.27）、小路 幸也（しょうじ ゆきや、1961.4.17）、笙野 頼子（しょうの よりこ、1956.3.16）、白石 一文（しらいし かずふみ、1958.8.27）、白川 道（しらかわ とおる、1945.10.19）、新戸雅章（しんど まさあき、1948.9.18）、新野 剛志（しんの たけし、1965.5.12）、真保 裕一（しんぼ ゆういち、1961.5.24）、須賀しのぶ（すが しのぶ、1972.11.7）、菅 浩江（すが ひろえ、1963.4.21）、杉本 章子（すぎもと あきこ、1953.5.28）、図子 慧（ずし けい、1960.5.9）、鈴木英治（すずき えいじ、1960.12.27）、鈴木輝一郎（すずき きいちろう、1960.7.24）、鈴木 光司（すずき こうじ、1957.5.13）、鈴木 清剛（すずき せいごう、1970.5.11）、諏訪 哲史（すわ てつし、1969.10.26）、清涼院 流水（せいりょういん りゅうすい 1974.8.9）、瀬名 秀明（せな ひであき、1968.1.17）

た行 (53人)

大道 珠貴 (だいどう たまき、1966.4.10)、平 安寿子 (たいら あすこ、1953.3.9)、高井 信 (たかい しん、1957.7.27)、高樹 のぶ子 (たかぎ のぶこ、1946.4.9)、高里 椎奈 (たかさと しいな、1976.12.27)、高千穂 遙 (たかちほ はるか、1951.11.7)、高橋 克彦 (たかはし かつひこ、1947.8.6)、高橋 源一郎 (たかはし げんいちろう、1951.1.1)、高橋 三千綱 (たかはし みちつな、1948.1.5)、高橋 直樹 (たかはし なおき、1960.3.22)、高橋 義夫 (たかはし よしお、1945.5.25)、鷹見 一幸 (たかみ かずゆき、1958.1.26)、高村 薫 (たかむら かおる、1953.2.6)、滝本 竜彦 (たきもと たつひこ、1978.9.20)、田口 ランディ (たぐち ランディ、1959.10.3)、竹岡 葉月 (たけおか はづき、1979.8.10)、武上 純希 (たけがみ じゅんき、1955.2.26)、竹本 健治 (たけもと けんじ、1954.9.17)、嶽本 野ばら (たけもと のばら、1968.1.26)、多島 斗志之 (たじま としゆき、1948.10.24)、立松 和平 (たてまつ わへい、1947.12.15)、田中 光二 (たなか こうじ、1941.2.14)、田中 慎弥 (たなか しんや、1972.11.29)、田中 哲弥 (たなか てつや、1963.1.27)、田中 啓文 (たなか ひろふみ、1962.11.9)、田中 文雄 (たなか ふみお、1941.9.22)、田中 芳樹 (たなか よしき、1952.10.22)、谷 甲州 (たに こうしゅう、1951.3.30)、谷村 志穂 (たにむら しほ、1962.10.29)、玉岡 かおる (たまおか かおる、1956.11.6)、多和田 葉子 (たわだ ようこ、1960.3.23)、司城 志朗 (つかさき しろう、1950.1.25)、柄刀 一 (つかとう はじめ、1959.2.2)、塚本 青史 (つかもと せいし、1949.4.9)、月村 了衛 (つきむら りょうえ、1963.3.18)、柘植 久慶 (つげ ひさよし、1942.6.21)、辻原 登 (つじはら のぼる、1945.12.15)、津島 佑子 (つしま ゆうこ、1947.3.30)、辻村 深月 (つじむら みづき、1980.2.29)、恒川 光太郎 (つねかわ こうたろう、1973.8.18)、津原 泰水 (つはら やすみ、1964.9.4)、津村 記久子 (つむら きくこ、1978.1.23)、出久根 達郎 (でくね たつろう、1944.3.31)、天童 荒太 (てんどう あらた、1960.5.8)、東郷 隆 (とうごう りゅう、1951.12.16)、藤堂 志津子 (とうどう しづこ、1949.3.14)、橙乃 ままれ (とうの ままれ、1973.8.25)、堂場 瞬一 (どうば しゅんいち、1963.5.21)、豊島 ミホ (としま みほ 1982.2.15)、鳥羽 亮 (とば りょう、1946.8.31)、友成 純一 (ともなり じゅんいち、1954.9.28)、鳥飼 否宇 (とりかい ひう、1960.3.6)、鳥越 碧 (とりごえ みどり、1944.5.17)

な行 (40人)

中井紀夫 (なかいのりお、1952.11.20)、永井 泰宇 (ながい やすたか、1941.3.10)、中上 健次 (なかがみ けんじ、1946.8.2)、中里 融司 (なかざと ゆうじ、1957.2.4)、中沢 けい (なかざわ けい、1959.10.6)、中島 京子 (なかじま きょうこ、1964.3.23)、中島 らも (なかじま らも、1952.4.3)、長嶋 有 (ながしま ゆう、1972.9.30)、中津 文彦 (なかつ ふみひこ、1941.12.23)、長野 まゆみ (ながの まゆみ、1959.8.13)、中原 涼 (なかはら りょう、1957.4.27)、中村 彰彦 (なかむら あきひこ、1949.6.23)、中村うさぎ (な

かむら うさぎ、1958.2.27）、中村 勝行（なかむら かつゆき、1942.11.14）、中村航（なかむら こう、1969.11.23）、中村 文則（なかむら ふみのり、1977.9.2）、中山 文十郎（なかやま ぶんじゅうろう、1964.5.15）、永山 則夫（ながやま のりお、1949.6.27）、流星 香（ながれ せいか、1965.9.28）、那須田 淳（なすだ じゅん、1959.6.20）、成田 良悟（なりた りょうご、1980.5.30）、鳴海 章（なるみ しょう、1958.7.9）、鳴海 丈（なるみ たけし、1955.10.30）、南條 竹則（なんじょう たけのり、1958.11.11）、新津 きよみ（にいづき きよみ、1957.5.4）、二階堂 黎人（にかいどう れいと、1959.7.19）、仁木英之（にき ひでゆき、1973.4.17）、西 加奈子（にし かなこ、1977.5.7）、西木 正明（にしき まさあき、1940.5.25）、西澤 保彦（にしざわ やすひこ、1960.12.25）、西谷 史（にしに あや、1955.3.14）、西村 賢太（にしむら けんた、1967.7.12）、楡 周平（にれ しゅうへい、1957.10.12）、貫井 徳郎（ぬくい とくろう、1968.2.25）、ねじめ 正一（ねじめ しょういち、1948.6.16）、野崎 六助（のざき ろくすけ、1947.11.9）、野沢 尚（のざわ ひさし、1960.5.7）、野中 柊（のなか ひいらぎ、1964.12.5）、乃南 アサ（のなみ アサ、1960.8.19）法月 綸太郎（のりづき りんたろう、1964.10.15）

は行 （58人）

橋口 いくよ（はしぐち いくよ、1974.2.17）、橋本 治（はしもと おさむ、1948.3.25）、橋本 紡（はしもと つむぐ、1967.9.22）、長谷敏司（はせ さとし、1974.3.18）、馳 星周（はせ せいしゅう、1965.2.18）、はせがわみやび（1963.6.30）、羽田 圭介（はだ けいすけ、1985.10.19）、服部 まゆみ（はっとり まゆみ、1948.10.14）、服部 真澄（はっとり ますみ、1961.7.31）、花村 萬月（はなむら まんげつ、1955.2.5）、浜崎 達也（はまざき たつや、1973.3.4）、林 譲治（はやし じょうじ、1962.2.6）、林 望（はやし のぞむ、1949.2.20）、林 真理子（はやし まりこ、1954.4.1）、羽山 信樹（はやま のぶき、1944.12.23）、はやみね かおる（1964.4.16）、原 奈（はら りょう、1946.12.18）、原田 宗典（はらだ むねのり、1959.3.25）、坂東 眞砂子（ばんどう まさこ、1958.3.30）、火浦 功（ひうら こう、1956.11.14）、東野 圭吾（ひがしの けいご、1958.2.4）、干刈あがた（ひかり あがた、1943.1.25）、ひかわ 玲子（ひかわ れいこ、1958.5.17）、樋口 有介（ひぐち ゆうすけ、1950.7.5）、火坂 雅志（ひさか まさし、1956.5.4）、久間 十義（ひさま じゅうぎ、1953.11.27）、氷室 冴子（ひむろ さえこ、1957.1.11）、姫野 カオルコ（ひめの かおるこ、1958.8.27）、百田 尚樹（ひゃくた なおき、1956.2.23）、檜山 良昭（ひやま よしあき、1943.9.5）、平野 啓一郎（ひらの けいいちろう、1975.6.22）、平山瑞穂（ひらやま みずほ、1968.9.6）、平山 夢明（ひらやま ゆめあき、1961.11.17）、平谷美樹（ひらや よしき、1960.1.25）、深水 黎一郎（ふかみ れいいちろう、1963.2.13）、深見 真（ふかみ まこと、1977.8.5）、福井 晴敏（ふくい はるとし、1968.11.15）、福永 信（ふくなが しん、1972.6.22）、福本 武久（ふくもと たけひさ、1942.4.21）、藤 水名子（ふじ みなこ、1964.6.29）、藤木 稟（ふじき りん、1961.5.22）、藤崎慎吾（ふじさき しんご、

1962.3.5)、藤沢 周(ふじさわしゅう、1959.1.10)、藤田 宜永(ふじた よしなが、1950.4.12)、藤野 可織(ふじの かおり、1980.2.14)、藤野 千夜(ふじの ちや、1962.2.27)、藤本 ひとみ(ふじもと ひとみ、1951.11.2)、藤原 伊織(ふじわら いおり、1948.2.17)、船戸 与一(ふなど よいち、1944.2.8)、古川 日出男(ふるかわ ひでお、1966.7.11)、辺見 庸(へんみ よう、1944.9.27)、保坂 和志(ほさか かずし、1956.10.15)、ほしお さなえ(1964.5.21)、星野 智幸(ほしの ともゆき、1965.7.13)、堀田 あけみ(ほった あけみ、1964.5.28)、堀 晃(ほり あきら、1944.6.21)、堀江 敏幸(ほりえ としゆき、1964.1.3) 本田 透(ほんだ とおる、1969.5.12)

ま行 (47人)

前川 麻子(まえかわ あさこ、1967.8.19)、万城目 学(まきめ まなぶ、1976.2.27)、正本ノン(まさもと のん、1953.1.26)、増田 みず子(ますだ みずこ、1948.11.13)、又吉 栄喜(またよし えいき、1947.7.15)、町井 登志夫(まちい としお、1964.12.9)、松井 今朝子(まつい けさこ、1953.9.28)、松井 計(まつい けい、1958.7.5)、松浦 寿輝(まつうら ひさき、1954.3.18)、松浦 理英子(まつうら りえこ、1958.8.7)、松岡 圭祐(まつおか けいすけ、1968.12.3)、松田 十刻(まつだ じゅっこく、1955.2.19)、松野 大介(まつの だいすけ、1964.2.5)、松本 侑子(まつもと ゆうこ、1963.6.17)、松山 剛(まつやま たけし、1977.7.30)、麻耶 雄嵩(まや ゆたか、1969.5.29)、真山 仁(まやま じん、1962.7.4)、丸山 健二(まるやま けんじ、1943.12.23)、三浦 しをん(みうら しをん、1976.9.23)、三浦 俊彦(みうら としひこ、1959.7.30)、三雲 岳斗(みくも がくと、1970.8.31)、三田 誠広(みた まさひろ、1948.6.18)、道尾 秀介(みちお しゅうすけ、1975.5.19)、宮城谷 昌光(みやぎたに まさみつ、1945.2.4)、宮崎 学(みやざき まなぶ、1945.10.25)、宮部 みゆき(みやべ みゆき、1960.12.23)、宮本 輝(みやもと てる、1947.3.6)、宮本昌孝(みやもと まさたか、1955.9.11)、村上 春樹(むらかみ はるき、1949.1.12)、村上 龍(むらかみ りゅう、1952.2.19)、村松 友視(むらまつ ともみ、1940.4.10)、村山 由佳(むらやま ゆか、1964.7.10)、群 ようこ(むれ ようこ、1954.12.5)、目取真 俊(めどるま しゅん、1960.10.6)、森 詠(もり えい、1941.12.14)、森 絵都(もり えと、1968.4.2)、森 奈津子(もり なつこ、1966.11.23)、森 博嗣(もり ひろし、1957.12.7)、森 真沙子(もり まさこ、1944.1.4)、森瑤子(もり ようこ、1940.11.4)、森岡 浩之(もりおか ひろゆき、1962.3.2)、森下 一仁(もりした かつひと、1951.6.16)、森田 季節(もりた きせつ、1984.4.10)、盛田隆二(もりた りゅうじ、1954.12.23)、森福 都(もりふく みやこ、1963.3.31)、森見 登美彦(もりみ とみひこ、1979.1.6)、諸田 玲子(もろた れいこ、1954.3.7)

や行 (29人)

薬丸 岳(やくまる がく、1969.8.26)、柳 広司(やなぎ こうじ、1967.9.20)、矢作 俊

彦（やはぎ としひこ、1950.7.18）、山口 泉（やまぐち いずみ、1955.7.28）、山崎 ナオ
コーラ（やまざき ナオコーラ、1978.9.15）、山崎 洋子（やまざき ようこ、1947.8.6）、
山田 正紀（やまだ まさき、1950.1.16）、山田 真美（やまだ まみ、1960.2.27）、山田 宗
樹（やまだ むねき、1965.11.2）、山田 悠介（やまだ ゆうすけ、1981.6.8）、山村 正夫
（やまむら まさお、1931.3.15）、山本 一力（やまもと いちりき、1948.2.18）、山本 文
緒（やまもと ふみお、1962.11.13）、山本 昌代（やまもと まさよ、1960.8.18）、山本 幸
久（やまもと ゆきひさ、1966.5.31）、唯川 恵（ゆいかわ けい、1955.2.1）、柳 美里（ゆ
う みり、1968.6.22）、夢枕 獏（ゆめまくら ばく、1951.1.1）、横田 順彌（よこた じゅ
んや、1945.11.11）、横山 秀夫（よこやま ひでお、1957.1.17）、吉岡 平（よしおか ひ
とし、1960.7.16）、吉川 潮（よしかわ うしお、1948.8.1）、吉田 修一（よしだ しゅう
いち、1968.9.14）、吉田 直（よしだ すなお、1969.10.24）、吉永 みち子（よしなが み
ちこ、1950.3.12）、吉村 達也（よしむら たつや、1952.3.21）、吉本 ばなな（よしもと
ばなな、1964.7.24）、米原 万里（よねはら まり、1950.4.29）米村 圭伍（よねむら けい
ご、1956.4.16）

わ（3人）

若桜木 虔（わかさき けん、1947.1.29）、和田 はつ子（わだ はつこ、1952.8.14）、渡辺
容子（わたなべ ようこ、1959.8.26）